

刀明石元二部大將嘉
落花流

N-0049

0284

昭和十三年五月
特輯第一號

明石元二郎大將遺稿

落花流水

秘

外務省調査部第一課

5	5	0
7	1	23
4	5	11

外務省調査部第一課

8 12.2.1.0-1

326

N-0049

0285

本書ハ日露戦争當時我駐露公使館附武官ナリシ明石元二郎大將（當時大佐）カ參謀次長兒玉源太郎大將ノ密命ヲ受ケテ特別任務ニ從事シ露國內ノ諸不平黨ト聯絡シ之ヲ操縦シテ情報ヲ獲得シ或ハ後方攪亂ヲ爲セル體驗ニ關スル大將自身ノ手記ナリ

明石大將ハ當時而ヲ受クルヤ瑞典ノ「ストックホルム」ニ急行シテ露國內ノ虛無黨員、社會黨員等ヲ煽動シ爾來獨、埃、英各國ニ亘ツテ亡命散在スル露國革命黨員トノ連絡ヲ策シ一方英國公使館附武官タリシ宇都宮太郎大將ト呼應シテ帝國參謀本部ト連絡ヲ取り着々祕策ヲ進メテ遂ニ明治三十七年十月巴里ニ於テ露國ノ自由黨、革命黨、芬蘭憲法黨、波蘭國民黨、同社會黨、「ドロシヤク」黨、「サカルドルフ」黨ノ代表者ヲ網羅スル大會ヲ開カシメ此ノ會議ニ於テ露國政府ヲ顛覆スル爲ニ種々ノ手段ヲ執ルコトヲ決議セシメタリ此ノ結果幾千モ無クシテ「キエフ」、「オデッサ」、「モスコ」等

例言

極秘

昭和十三年五月

落花流水

（明石元二郎大將遺稿）

外務省調査部第一課

ニ革命黨ノ示威運動起リ翌年一月ニハ露都ニ於テ怪僧「ガボン」ヲ
首領トスル暴動起ル等露國ノ内情ハ次第ニ不穩ノ形勢ヲ呈シ來レリ
斯ク敵國ノ内部攪亂ヲ圖ル一方ニ於テ敵國ノ軍事其他ニ關スル實情
ヲ探リテ本國ニ急報スル任務ノ爲ニ活躍シ多數ノ人物ヲ操縦シテ神
緯奇策ヲ廻ラシ且ツ自ラモ屢々身ヲ危地ニ曝シツツ縱横無盡ニ歐洲
各地ヲ奔走セリ

本書ヲ分チテ九章ト爲ス

第一章ニ於テハ露國皇室ノ腐敗ト國民ノ反抗一般的ノ歴史ヲ述ヘ

第二章ニ於テハ露國ニ於ケル農制ノ特殊性ト農奴ヲ解放セラレタル以
後モ益々不平ヲ昂メシ事情ヲ述ヘ

第三章ニ於テハ虛無主義、無政府主義、社會主義ノ起因、學說及其
活動ヲ敘シ

第四章ニ於テハ露國內不平黨ヲ類別シ諸黨ノ特質ト其ノ活動狀況ト
ヲ述ヘテ露西亞帝國ノ脆弱性ヲ知ラシメ

第五章ニ於テハ革命運動ノ重要人物四十二名ヲ舉ケテ簡單ナル説明
ヲ附シ

第六章ニ於テハ明石大將カ苦心慘憺革命黨員ト連絡關係ヲ設定シ愈
々後方攪亂ノ活躍ヲ開始セル事情ヲ述ヘ

第七章ニ於テハ同大將カ新聞、間諜ヲ利用シテ諜報ニ努メ殊ニ暗號
ニ苦心セル事情ヲ述ヘ

第八章ニ於テハ大將カ活躍中印象深キ苦心談ヲ述ヘ

第九章結論ニ於テハ露國政府ハ百難ヲ忍ビテ事ヲ爲スモ畢竟皇帝及
宮城ヲ守ラントスルニ外ナラス一億二千萬ノ國民ハ無智ニシテ而モ
皇帝及政府ヲ憎ム事甚シク加之宮中ハ陰謀抗爭ノ府ナルカ故ニ露國
ハ早晚土崩瓦解ノ途ヲ進ムヘキヲ豫言セリ

明石大將ハ元治元年福岡ニ生レ日露戰役後大正八年台灣總督在任中
五十六歳ヲ以テ逝去セリ

本書ノ原本ハ大將ノ嗣子明石元良男爵ノ所藏ニ係ルモノナルカ同男

5

落
花
流
水

S 12.2.1.0-1

332

4

爵ハ特定少數者ニ頒布スヘシトノ諒解ノ下ニ之カ複製ヲ承諾セラレ
タルモノナルヲ以テ絶對ニ他人ノ閱讀ヲ禁セラルル様ヲ度シ

調
査
部
第
一
課

S 12.2.1.0-1

331

N-0049

0288

目次

- 一、歴史
- 二、土地及農制、州郡會々ムストボ
- 三、虛無主義等ノ起因學說及其活動
- 四、露國內不平黨ノ類別
- 五、諸運動ニ關係アル重要人物
- 六、不平黨運動顛末
- 七、間諜及諜報勤務
- 八、奇談一束
- 九、結論

S 12.2.1.0-1

333

第一章 歴史

世界ニ比類ナキ版圖ヲ有スル露西亞帝國ハ復タ世界ニ比類ナキ奇態ナル歴史ヲ有ス

今ヲ距ル一千四五百年前ニ於テ歐洲ヲ蹂躪セル匈奴ノ遺族ハ芬人種トシテ現歐露ノ北半部ニ殖民シ「トルコマン」芬ノ混血族ハ今ノ南部歐露ニ蕃殖シ其東南部即チ「ドン」地方ハ希臘人種族「ハルチツク」沿岸ノ北部ハ芬、南部ハ「レツトン」族ニシテ「ストラブ」人種ハ今ノ歐露ノ版圖内ニ於テハ僅ニ「ノヴゴロツド」ヲ北部トシ「アデッサ」及「ウスチエル」南岸ニ渉ル狹長ノ一域ニ過キス之ニ反シ今ノ露國ノ版圖外ナル「モラヴ」「セルビヤ」「ブルガリヤ」「チエク」等ノ地方ニハ其人種蕃殖シ居タリ故ニ「ストラヴ」人種ノ地方ヲ舉クレハ今ノ巴爾干半島ヨリ狹ク長ク直角ヲ爲ス一帯線ニシテ今ヲ距ル約一千年前ニ於ケル現露西亞帝國ノ歐洲ニ於ケル封疆内ニハ「ストラヴ」種族「ノヴゴロツト」「キエフ」「ラデッサ」ヲ貫ク狹

S 12.2.1.0-1

334

少ノ長帶ヲ以テ其棲息ノ區域ヲナセリ。
 今ヲ距ル一千年前ニ至リ「スカンデナヴィア」半島ヨリ渡來セル野武
 士即チ「ワリヤク」ト稱スル浪人輩ハ今ノ露西亞ノ中西部ニ於テ至
 ル處「スラヴ」人種ヲ征服シ各々諸侯トナリ割據セリ露國第一期ノ
 開祖「ルーリツク」モ亦其一人ニシテ露西亞即チ「ルース」テル名
 稱ハ當時ノ酋長「ルーリツク」ノ支配セル部落「ルース」ヨリ出ツ
 「スラヴ」人種ノ間「ワリヤク」諸侯ノ間ニハ分立競争絶ユルコト
 ナク統一ノ君主之レヲ治ムルモノアルナシ而シテ今ノ露西亞「スラ
 ヴ」ハ希臘帝國ノ化育ヲ受ケ波蘭土「スラヴ」ハ羅馬帝國ノ養成ヲ
 蒙リ開化其道ヲ異ニシ宗教其派ヲ同フセス同腹ノ姉妹ニシテ不俱載
 天ノ讐敵タル惡因緣ヲ生レナカラニ結フコトトナレリ
 今ヲ距ル約七百年前元ノ太祖カ支那土耳坦ヲ征服シ兵ヲ西方陸盡ル
 ノ境ニ進ムルニ方リ今ノ歐露ノ東部ハ其馬蹄ニ蹂躪セラレ窩濶臺即
 チ元ノ太宗カ其姪跋都汗（或巴圖汗）ヲ西方大總督ニ任スルニ及ヒ

S 12.2.1.0-1

335

荐リニ「ウオルガ」「リヤザン」ノ地方ヲ剽略シ更ニ進ンテ「ルー
 リツク」王朝ノ北朝タル「ゲラギトルゴルギ」公ノ諸封土莫斯科
 「スーダル」「ヤロスラヴル」地方ヲ征服シ「ノヴゴロド」ヲ侵シ
 又南朝ノ封土「チエルニゴフ」「キエフ」ヲ略シ終ニ今ノ露西亞帝
 國ノ歐羅巴封疆ヲ統一セシハ今ヲ距ル約六百六十年前ナリキ
 露ノ第一王朝ニハ「ネヴスキ」「ドミトリードンスコイ」「イワ
 ン」三世等多少ノ英主アリシモ皆韃靼配下ノ諸侯タルニ過キサリキ
 元ノ王朝衰フルニ及ヒ歐露ニ於ケル其勢力ニ影響ヲ來セシト雖モ四
 百年前迄ハ畢竟韃靼ノ奴隸タルヲ免レサリシ今日露西亞ノ用語ニ猶
 韃靼ノ餘勢ヲ示スモノアリ例令ハ農民ヲクリスチアン邪蘇教徒ト云フカ如キ又俗
 間ニ韃靼ノ遺業ヲ呼フニタタール公爵ヲ以テスルカ如キ是レナリ
 「イワン」第四世武烈王カ露國ノ統一ヲ圖ルニ及ンテモ其版圖ハ僅
 ニ莫斯科ヲ中心トシ「ブスコフ」「キエフ」「カザン」ノ地域ヲ有
 スルニ過キサリキ

S 12.2.1.0-1

336

「イワン」第四世ノ子「フエヲドル」ノ暗弱ニ乗シ皇后ノ兄「グロ
ドノフ」カ之ヲ弑シ潛奪シテ王トナリシハ今ヲ距ル僅ニ三百年前ニ
過キス
潛王「バリスグロドノフ」ノ死スルニ及ビ列國ノ歴史ニ比類ナキ奇
怪ナル時代ハ來レリ露國歴史中ニテ「真ノ暗」ト稱スル時代即チ是
レナリ
莫斯科ノ僧正カ破門セル一徒弟「ラビエトロフ」ハ先王「イワン」
四世ノ遺子ト稱シ波蘭土ニ起ルヤ四方ノ民無我夢中ニ之ニ雷同シ破
戒ノ妖僧ハ終ニ「ドミトリ」ノ名ヲ以テ首府ヲ侵略シ帝ノ冠ヲ戴
ケリ
間モナク「ワシリ」シヨイスキー」ハ暴動ヲ企テ潛王「ドミトリ
」ヲ廢スルヤ復タ萬民ノ歡迎聲押ニ帝位ニ登レリ
幾クモナク流言アリ必ス眞ノ「ドミトリ」出ツヘシト言フヤ我コ
ソ眞ノ「ドミトリ」ナリト稱スル第二ノ「ドミトリ」出顯シ失

産ノ貴族、破戒ノ僧、脱走兵、盜賊、愚昧ノ民、雲ノ如ク集リ之レ
ニ呼應シ皇帝「ワシリ」其權勢ヲ失ヒ第二ノ「ドミトリ」カ「
ツィチノ」ニ陣シ莫斯科ヲ壓スルノ間ニ於テ莫斯科ノ兵亂ハ終ニ
皇帝「ワシリ」ヲ廢スルニ至レリ
此ノ國歩艱難ノ際ニ方リ屠牛商「ミン」ナルモノ市巷ノ間ニ起リ
貴族「ホイヤルスキー」ヲ説テ義兵ヲ舉クルヤ四方ノ民亦之ニ呼應
シ第二ノ「ドミトリ」ヲ討スル等露國國民ノ中心守ル處薄ク事毎
ニ雷同シ易キハ此時代以後ノ歴史ニ於テモ亦絶ヘス見ル處ナリ
此ノ「真ノ暗」時代ハ此ノ如クシテ經過シ終ニ莫斯科ノ僧正ノ子ニ
シテ當時十五歳ノ一貴公子タル「ミハイル」ヲ帝座ニ迎ヘシハ今ヲ
距ル二百九十三年前ニシテ「ロマノフ」家ノ王朝ハ實ニ列國中新參
ノ一ニ屬ス而シテ露國內ニ於テ第一王朝即チ「ルーリツク」ノ苗裔
ハ今尙公爵中ニ最も多ク存立ス彼ノ「ドルゴルーキー」ハ或ハ「ド
ルゴルーコフ」トモ稱ス家ノ如キ蓋シ其最タルモノナリ

僧門出身ノ「ミハイル・ロマノフ」ハ可モナク不可モナク其子「アレキシス」少シク版圖ヲ擴メ可薩克ノ酋長「ボグダン」ノ亂アリ間モナク「ドン」可薩克ノ「スチエエンコー、ラジン」ナルモノ亂ヲ起シ東部歐魯ヲ震動セシム當時「スチエエンコー」ハ魔術師ニシテ刀劍彈丸一ツモ彼レヲ傷ルノ効ナキヲ喧傳シ兵威大ニ振フ其「ベンザ」「タンボフ」「ニーシユニー」「ノブゴロド」等「ウォルガ」河流域ノ諸州ヲ侵スヤ「チュードフ」「モルダヴ」「チエレニス」ノ諸種族其旗下ニ蜚集シ官兵辛フシテ終ニ之レヲ鎮壓スルニ至レリ

「アレキセフ」ノ子ハ即チ有名ナル彼得大王ニシテ此時代ニ於テ西歐トノ交通大ニ進ミ其文化入ル然レトモ彼得ノ初年ハ又混雜ノ中ニ在リシ彼王ノ異腹ノ姉「ソフヒヤ」野心ヲ懷抱シ暴舉ニ因テ宰臣ヲ殺シ彼王ノ生母ヲ幽シ自ラ攝政トナレリ彼得王長スルニ及ヒ其ノ豫テ幼時ヨリ信任セル遊戯隊ヲ基幹トシ反テ潛ニ攝政「ソフヒヤ」ノ親衛兵ヲ利用シ「ソフヒヤ」ヲ幽シ權勢ヲ回復セリ彼得ノ事業ハ人口ニ膾炙スル所ナルカ當時ノ國風ハ韃靼風ニシテ彼王ハ其西歐歷遊中到ル處西歐ノ文化ニ驚動セリ彼王ノ世ニ於テモ莫斯科ノ騷擾「アストハラン」駐屯軍隊ノ亂アリ蓋シ流言其基ヲナスモノニシテ曰ク彼王ハ其西歐遊歷中梃ノ中ニ封セラレ水中ニ投セラレタリ曰ク莫斯科ニ歸來セルハ彼得ニ非ス獨逸人ノ子ナリ故ニ獨逸ノ風俗ヲ獎勵ス曰ク眞ノ彼得ハ瑞典ノ牢獄ニ在

リト是等ノ流言ハ一々邊鄙ノ軍隊中ニ之ヲ信スルモノヲ生シ愚昧ノ人民中ニハ之ニ迷ハサルモノヲ生セリ
 彼王ノ事業ハ大ナリシト雖モ其版圖ノ擴張ハ「エカテリヌ」二世ニ及ハス
 彼王ノ皇太子叛ヲ圖リ殺サレ嗣ナシ皇后「エカテリヌ」位ニ即ク今ヲ距ル百八十年前ナリ
 佛國ノ歴史大家「デュリー」曰ク「エカテリヌ」ハ元奴隸ニシテ巴爾的沿岸地方征討ノ際大將「シエルメツチエフ」ノ妾トナリ「シエルメツチエフ」之レヲ元帥「メンシコフ」ニ贈リ其妾トナス「メンシコフ」後チ之レヲ彼得王ニ獻シ終ニ其皇后トナルト。
 「エカテリナ」一世カ微賤ノ身ヨリ起リ皇后トナリ又未曾有ノ破格ヲ以テ女性ニシテ帝位ニ即キシハ「メンシコフ」ノ力多キニ居ルモノニシテ「エカテリヌ」第一世ノ治世中「メンシコフ」ノ勢力專横ヲ極メタリ

「エカテリヌ」一世死シ廢太子ノ子位ニ即ク之レヲ彼得第二世トナス
 「メンシコフ」益々專横トナル帝公爵「ドルゴルキー」ト圖リ之レヲ斥ク幾モナク「ドルゴルキー」亦專横トナル帝崩ス皇子ナシ
 權臣「ドルゴルキー」「ガリチン」相謀リ高等樞密院ヲ設ケ貴族數名ヲ以テ其員トナシ貴族政治ヲ行ハントス是カ爲メ最モ王位ニ望ナキ遠裔ヲ求メ位ニ即カシメ君權ヲ殺カント欲シ彼得一世ノ兄ノ子ニシテ「クールランド」公爵夫人「アンナ」ヲ迎エ立ツ然レトモ其條件トシテハ純然タル貴族政治ヲ行フニ在テ君主ハ宣戰講和ノ權サヘモ有セザリキ
 「フエラフアン」ト稱スル僧アリ人民ヲ煽動シ窃ニ款ヲ「アンナ」ニ通ス一日武士數百ヲ以テ貴族會議ヲ脅迫シ之レヲ解散シ政權ヲ回復ス後獨逸人ヲ採用シ人民不平等シ寵臣「ピロン」事ヲ用ユ帝崩ス幼帝「イワン」六世位ニ即キ「ピロン」攝政トナル「ピロン」專横

大臣「ミニニツク」陰謀ヲ企テ一夜「ビロン」ヲ襲ヒ之ヲ捕ヘ西伯里ニ幽ス帝ノ生母（先帝「アンナ」第一世ノ姪）「アンナ」二世攝政トナリシモ大臣權ヲ爭ヒ政舉カラス民不平ヲ鳴ラシ宮庭ハ陰謀ノ府トナレリ

是ヨリ先キ英邁ノ資ヲ抱キ深宮中ニ默シ時勢ノ推移ヲ待チシハ彼得一世ノ子「エリザベツト」内親王ニシテ夙ニ甥ニ近衛兵ヲ撫馴ス一夜突然近衛歩兵聯隊ノ營ニ入り説テ曰ク卿等能ク余ハ何人ノ女ナルヲ記スルヤト兵士皆叩頭死ヲ誓フ即夜幼帝「イワン」四世及攝政「アンナ」一世ヲ廢シ權臣ヲ刑シ位ニ即ク之レヲ「エリザベツト」女帝トナス此革命ノ資金ハ陰ニ佛大使「ラシエタリー」ノ供給セシ所ニシテ佛獨之レカ爲メニ親交ヲ増シ英埃疎外セラル後佛政府ノ其大使ニ宛テタル暗號訓令露政府ノ解讀スル所トナルニ及ヒ露佛ノ關係疎トナル

「エリザベツト」女帝ノ世國勢復タ舉カル普王「フレデリック」二

世ノ軍ヲ「フランクフォルト」ニ破リ露軍伯林ニ入ル「エリザベツト」崩シ嗣ナシ姉ノ子彼得「ホルスタイン」ヨリ入り位ニ即ク之レヲ彼得第三世トナス

彼得第三世ノ后ハ「アンハルト」公國ノ「ソフヒヤ」公主ニシテ十四歳ニシテ露國ニ嫁ス彼ノ有名ナル「エカテリヌ」二世大女帝即チ是ナリ

彼得三世皇后ト合ハス后ヲ廢スルノ意アリ后陰忍其野心ヲ包ミ甥ニ近衛將校ニ結フ一千七百六十二年ノ夏彼得三世「ヲラニエンブルグ」ニ在リ皇后其嬖臣「タルロフ」ヲ召シ近衛三個聯隊ニ命シ帝ノ叔父及ヒ權臣ヲ提ヘ「クロンスタツト」ニ備ヘヲナサシメ自ラ兵二萬ヲ率ヒ露都ヲ發シ皇帝ノ行在地ニ向フ帝海路ヨリ遁レントシ「クロンスタツト」要塞司令官ノ手ニ落チ帝位ヲ辭ス皇后寵臣「タルロフ」ヲシテ之レヲ「ロプシヤ」村ニ移サシム幽居三日ニシテ帝崩ス蓋シ皇后之レヲ弑セシメシナリ

此ノ時ニ方リ「イワン」六世ハ義ニ「エリザベッド」女帝ノ爲メ幽
セラレ猶ホ「シユルセルブルグ」ノ牢獄ニ在リ今ヤ彼得三世亦皇后
ノ爲弑セラル而シテ露西亞帝國ノ帝座ハ今ヤ外國人ニシテ君ヲ弑シ
夫ヲ殺シ嬖臣ト通スル（皇后後嬖臣「ヲルロフ」間ニ子アリ之レヲ
公認シ伯爵ヲ賜フ「ホプリンスキー」伯是レナリ京童今日尙ホ「ヲ
ルロフ」帝室ト云フハ是等ニ職由ス）「エカテリヌ」皇后ニ因テ篡
奪セラル

然レトモ「エカテリヌ」大女王ハ英邁雄大ノ資ヲ以テ波蘭土ヲ取リ
「クールランド」ヲ壓シ蓉リニ露國ノ境土ヲ擴メ土耳其ニ捷チ瑞典
ヲ斥ケ國勢大ニ振フ隣境ノ雄傑「フレドリヒ」大王ノ頭ヲ壓スルモ
ノ當時此ノ女雄ノ外ナカリキ

然レトモ内部ニ於テハ復タ多少ノ困難ニ遭遇セリ今ヲ距ル約百三十
餘年前ニ至リ莫斯科ニ惡疫流行ス民神護ニ因リ厄難ヲ免レント欲シ
神廟ノ側ニ露宿スルモノ群ヲ爲ス僧正其病ヲ醸スヲ恐レ神像ヲ撤ス

民激怒ス忽チ群中ニ聲アリ曰ク「宮城ヲ襲ヘ」ト暴民僧正ヲ殺シ暴
行到ラサル處ナク莫斯科市街ハ幾ナラスシテ修羅場ト化セリ數日ノ
後事治マル然レトモ此導火ハ復タ他ノ一揆ヲ喚起セリ

胡薩克ノ脱走兵ニシテ前科犯者タル「プロガチエフ」ナルモノ西伯里ヨリ遁レ來リ自ラ女帝ノ夫彼得三世ナリト稱シ宣言シテ曰ク吾カ妻惡逆無道帝位ヲ篡奪ス我レ之ヲ討セントス四方ノ農民之ニ附和雷同シ盜賊脱走兵破産ノ貴族波蘭土ノ捕虜ハ之レニ蟻集シ「ヴラルガ」河畔ニ於ケル其勢力猖獗ヲ極メ征討ノ官軍亦其戟ヲ倒ニシ俗僧塩米（魯ノ風習）ヲ捧ケ簞食壺漿到ル處之レヲ迎フ莫斯科ノ奴隸十萬復タ風ヲ望ンテ動搖ス官軍屢々敗ル「ヴラルガ」「カザン」一帯ノ地掠略放火到ラサル處ナグスノ如クシテ年ヲ踰ヘ「プーガチエフ」ノ軍終ニ潰ニ然レトモ動搖猶未タ止マス吾ハ「イワン」六世ナリト稱スルモノ我ハ彼得三世ナリト稱スルモノ眞ノ「プーガチエフ」ト稱スルモノ皇太子「パウル」ト稱スルモノ諸方ニ顯ハレ愚民亂徒之レニ附加シ勝手放題ノ聲言ノ下ニ叛亂暫ラタ繼續セルハ彼ノ「ドミトリ」横行ノ手段ト同一轍ニシテ是レ今ヲ距ル僅ニ百三十年前ノ露國ノ形勢ナリキ

6 12.2.1.0-1 347

「エカテリヌ」大女王ハ兎ニ角威武ヲ内外ニ輝シ領土ヲ擴張セシハ前代未タ其比ヲ見サル所ナリキ

「エカテリヌ」崩シ其子「パウル」一世位ニ即ク「パウル」一世ノ治世ハ奈破翁トノ戰爭及和親其ノ重ナルモノニシテ「パウル」一世ノ末年ハ英ヲ疎ミ那翁ニ親ミ大ニ民心ヲ失フ

晩年皇后及皇太子「アレキサントル」ヲ廢セントノ意アリ前駐獨大使「バニン」窃ニ皇太子ニ暴舉ヲ勸ム露都ノ知事兼警視總監タル「バーレン」ヲ得「バーレン」亦近衛將校兵士及「ハンノーヴェル」國人ニシテ剛毅不撓ノ「ベンニングセン」ナルモノヲ得「ベンニングセン」一夜其黨與ノ近衛隊警備ニ任スルヲ機トシ數名ノ一味ト共ニ宮城ニ入り「パウル」一世ニ辭職ヲ迫ル帝聽カス終ニ格闘トナル燈滅ス帝匙首ニ斃ル因ニ言フ此壯士「ベンニングセン」ノ名ハ吾人ハ後年露ノ最モ顯著ナル歴史中ニ再ヒ之ヲ見ル即チ彼ノ「エーロー」ノ大戰ニ於テ「フリドランド」ノ大戰ニ於テ露ノ全軍ヲ統督シ奈翁

6 12.2.1.0-1 348

ト戦ヒ奈翁ヲシテ其執拗ニ驚歎セシメシ元帥「ベンニングセン」ハ
實ニ此ノ弑虐ノ壯士「ベンニングセン」ノ後半生ナリ
「パウエル」一世弑セラレ皇太子位ニ即ク之レヲ亞歷山一世トス奈翁
ハ其藥籠中ノ「パウエル」一世ノ死ヲ悼ミ其機關新聞「モニツール」
ニ於テ「パウエル」一世ノ弑虐ハ英國ノ陰謀ニ出ツルトナシ之レヲ攻
撃セシメシコトアリ

亞歷山一世ノ治世ハ奈翁トノ戦争ヲ主トス其對外方針ハ屢々變更セ
シト雖モ殊ニ末年ニ於テハ歐洲諸帝王ノ中堅トナリ奈翁ニ反抗セリ
一千八百十二年奈翁ノ軍露ニ入ルニ方リテモ露ノ下民中ニハ之ヲ解
セサルモノ多カリキ曰ク那翁ハ露ノ農民ノ塗炭ニ苦ムヲ救フ爲メニ
來ルト於是莫斯科ノ知事「ロストブチン」ハ特ニ諭告ヲ發シ奈翁ハ
露ノ利益ヲ圖ル爲メニ來ルニ非スシテ其皮肉迄モ褫奪センカ爲メニ
來レルモノナルヲ述ヘ之レヲ鼓舞セリ
那翁カ莫斯科侵入後露ノ死命ヲ制スルニ苦ムヤ一千七百三十年（「

アンナ」一世時代）ノ彼ノ貴族政事ヲ餌トシ貴族ヲ籠絡スルコト奴
隸解放ヲ行フテ民心ヲ收攬スルコト「ヴォルガ」地方ノ韃靼民族ヲ
煽動シ「ブーガチエフ」亂ノ如キ騒動ヲ惹起スルコト等ノ陰謀ハ其
最モ研究セシ處ニシテ況ヤ波蘭土ノ如キ全ク其節制ニ從ヒ那翁軍中
常ニ波蘭軍ノ之レニ從ヒ行動スルモノアリシカ如キハ最モ顯著ナル
事實トシテ存ス其「リチュニア」ニ對スルモ亦常ニ煽動的手段ヲ
取レリ

亞歷山一世ノ對奈翁戦争ハ露國人ヲシテ實際西歐ノ文物ニ親炙スル
ノ機ヲ與ヘ同時ニ自由主義ノ進入ニ一ノ門戸ヲ開キタリ

西歐自由ノ空氣及文化カ猶ホ幼稚ナル露人ニ漸ク觸ルルヤ「フ라마
 ソン」同濟主義ノ結社ヲ生シ公爵杜、公爵車、公爵阿等ノ名族亦之
 ニ加ハル其主義ハ立憲政度ヲ持スルモノ既ニ共和制度ヲ説クモノト
 二派ニ分レ五六年ノ後終ニ解散セリ
 一千八百二十二年ニ至リ更ニ急激ノ二黨成立セリ一ハ北社ト號シ公
 爵杜及流仁等其首領ニシテ露都ニ其本據ヲ置キ南社ハ大佐卑照李禮
 等ニシテ小露ノ「ボトリ」地方ヲ其根據トス
 彼等ハ「ロマノフ」帝室ノ存在スル間ハ自由ト共和ハ行ハレサルヲ
 以テ「ロマノフ」家ヲ滅シ帝座ヨリ拂フヲ以テ急務トスルノ主義ヲ
 取レリ
 一千八百二十五年亞歷山一世崩ス兩弟アリ長ヲ波蘭總督「コンスタ
 シン」大公トシ次ヲ「ニコライ」大公トス「コンスタンチン」大
 公帝位ヲ次第「ニコライ」大公ニ讓ル之レヲ「ニコライ」第一世ト
 ス

「ニコライ」第一世位ニ即クヤ北社ハ近衛「クレナデル」聯隊露都
 ノ海兵團ヲ教唆シ亂ヲ起ス宣言シテ曰ク皇兄ハ波蘭土ニ幽囚セラレ
 其讓位ハ虚憫ナリト人民相傳ヘテ信トナスモノ多シ是ヨリ先キ憲法
 即チ「コンスタチユチア」ナル語ハ漸ク人民ノ耳染ニ觸ル北社檄ヲ
 飛ハスニ人民例ノ如ク雷同シ其大公ノ名ト憲法ナル語ノ相似タルヨ
 リ彼此混合シ^{コンスタチ}大公萬歳ヲ叫フアリ憲法萬歳ヲ叫フアリ中ニハ憲法
 トハ「コンスタチンチ」大公ノ妃ノ名ナリト誤解シ復タ其萬歳ヲ唱ヘ
 タルモノモ多カリキ蓋シ憲法ナル語ノ性格女性ナレハナリ
 此ノ如キ無我夢中ノ愚民輩ハ露都ヲ紛擾シ大僧正ヲ殺シ又府知事タ
 ル有名ナル將軍密羅^{ミロビッチ}ヲ殺シ軍隊ト爭鬭シ終ニ潰ユ世ニ^{テラカン}十二月^ノ亂
 ト稱スルモノ是ナリ
 幾モナク南社亦小露西亞ニ亂ヲ起シ將官「ガイスマル」ノ兵ト戰ヒ
 敗ラル大佐卑照等捕ヘラレ刑セラル刑ニ臨ミ叫ンテ曰ク吾輩一身ノ
 爲毫モ計ル處ナシ唯國ヲ思フノ一念ハ革命ノ外他ニ救済ノ道ナキヲ

信ス我輩死スルモ後世必ス義人ノ起ルモノアラント蓋シ後年横行スル虚無黨ノ説亦大佐卑照等ニ其根底ヲ發ス
 一千八百三十一年波蘭亂ヲ起ス中尉微楚等其主謀者タリ是時ニ至ル迄波蘭ハ其地方ノ兵ヲ有セシカ此ノ亂ニ與セサルモノハ僅ニ波蘭乘馬獵兵一大隊アリシノミニテ亂兵ノ數四萬ニ達シ兵威大ニ振フ露ハ十二萬ノ兵ヲ發シ苦戰數回、月ヲ超ヘ僅ニ鎮定セラル是ヨリシテ波蘭土ハ其地方兵ヲ有スルヲ禁セラレ徵兵ハ各地方ニ編入セラレ又行政上ニ於テモ大改革ヲナシ其自主ノ政體ヲ變更セリ
 尼古來一世ノ世ニ方リ巴兒干ノ諸邦ハ漸ク土耳其ノ羈絆ヲ脱セントスルノ趨勢ヲ生シ露ハ同宗同族ノ先輩國トシテ此ノ諸邦ノ上ニ保護權ヲ據ラント欲シ露土形勢漸ク切迫ス露帝一日駐露都英大使「セームール」ニ語テ曰ク卿カ紳士タルノ高德ヲ信シ密談セン^{コンスタンティノブル}露國之レヲ他ニ讓ル能ハス其他ノ地方ハ唯英ノ欲スルカ儘ナリ英露ニシテ一致セハ天下復タ恐ルヘキモノナシト英大使露帝ノ野心ノ甚タ

大ナルヲ悟ル英是ニ於テ佛國ヲ教唆センカ爲其秘密談ヲ公ニス佛土ヲ助クルニ決心シ埃普亦露ニ怒ル露孤立援ナク而シテ勢止ムヘカラス斯ノ如クシテ露土ノ久里米戰起リ一千八百五十四年ヨリ五十五年ニ亘リ久里米包圍セラレ黑海巴爾的絕東ノ海面ハ連合艦隊ノ封鎖スル所トナリ帝ハ苦悶ノ裡ニ崩ス
 此ノ多難ノ際皇太子位ニ即ク之レヲ亞歷山第二世トス
 亞歷山第二世ハ成ヘク露國ニ名譽ノ平和ヲ得テ其局ヲ結ハント欲シ「セバストボール」陷ルニ及ヒ終ニ平和ヲ締結セリ
 亞歷山二世ハ露ノ敗北ノ原因ハ言路硬塞人心麻痺官吏腐敗國防懈怠ニ在ルヲ信シ内政ノ改革ニ力ヲ傾ケリ實ニ「セバストボール」要塞ノ如キ當時金城鐵壁ト稱セシモ其防備ハ攻圍中ニ於テ之レヲ完備セシニ過キサリシト云フ
 露帝ハ改革ノ最急務ハ奴隸解放ナリト認メ之レヲ決行セシハ一英斷ナリシモ其不完全ハ農制ト關聯シ今尙露國內政ノ弱點トシテ存ス

一千八百七十四年即チ我カ明治七年「ボスニーヤ」「ヘルツェゴビ
 ス」反亂漸ク猖獗トナルヤ土耳其ハ威力ヲ以テ之ヲ鎮壓セントシ其
 餘燭ハ蒙^{モンテネグロ}ニ塞爾比等「スラヴ」「バルトドクス」宗族ノ敵意ヲ挑
 發シ加フルニ土政府ノ拙劣ナル政策ハ「チエルケス」同々教徒ヲ教
 唆シタル爲メ一層反抗ノ氣勢ヲ高メ終ニ露國ヲシテ同宗族救済ノ念
 ヲ喚起セシメ延テ一千八百七十七年ノ露土戰トナレリ
 此役ノ結果ハ彼ノ有名ナル「サンステフアイ」ノ假條約トナリ伯林
 會議トナリ露ハ武名ヲ博シ得ル所ナカリシハ最モ世人ノ知ル所ナル
 モ亦一方ニ於テ露ノ自由主義不平等黨ハ一ノ勢力ヲ得タリ是レ巴爾干
 小邦ノ自由ヲ恢復シ其憲法ヲ有スルヲ見ルヤ美望ノ念ハ深ク之ヲ動
 カシタレハナリ
 亞歷山第二世ノ末世ニハ所謂虛無黨橫行シ其非常手段ヲ用ヒシコト
 枚舉ニ遑アラス就中最顯著ナルハ冬宮ノ爆裂莫斯科ニ於ケル皇帝車
 ノ爆裂等ニシテ後文述フル所アラン

時ノ宰相「ローレス、メリコフ」公爵ハ寧ロ溫和ナル改革ノ壓制ニ
 勝ルヲ信シ憲法ノ制定ヲ奏上シ皇帝亦之レヲ嘉納シ將ニ憲法ヲ發布
 セントスルニ方リ處女「ウエラー」、「ベレヴスカヤ」、壯士「グ
 リユネビッチ」等ノ爲爆裂彈ニ斃ル時ニ明治十三年ナリキ
 皇太子立ツ之レヲ現露帝ノ父亞歷山第三世トス
 亞歷山三世位ニ即クヤ教務大臣波殿及ヒ莫斯科ノ新聞主筆「カツコ
 フ」ノ說ヲ採用シ「メリコフ」公爵其職ヲ辭シ壓抑主義ノ政策ニ變
 ス
 亞歷山三世時代ニ於ケル露ノ對外策ハ專ラ「バルカン」半島ニ在リ
 當時勃興セル「スラヴ」連合會ハ或ハ言語ノ不同宗教ノ相異等ニテ
 目的ヲ達スル能ハサリシト雖モ巴爾干小邦ニ對スル露ノ勢力ハ飛鳥
 ヲ落スノ觀アリ而シテ其陰謀譎詐至ラサル處ナク殊ニ其ノ塞耳比勃^{セルビア}
 牙利ニ對スルモノニ至テハ堂々タル露ノ使臣顧問ハ勝手放題ニ此ノ
 可憐ノ小邦ヲ攪亂セリ其勃牙利公亞歷山カ塞耳比ノ軍ヲ破リ英邁厚

又「アルメニヤ」寺領ヲ沒收セル等近年ニ於ケル其怨恨ヲ買フノ原因ヲナセリ又明治三十三年大學生ノ兒戲的紛擾ヲ鎮ムルニ威力ヲ以テシタル爲メ多少ノ紛紜ヲ生シ彼ノ自由黨ノ左派首領「ストルーベ」ノ如キ其他數名ノ追放者ヲ出セリ然レトモ政府ノ威嚴ハ不平黨ヲシテ片言隻辭治安ヲ妨害スルニ至ラシメス塵埃ヲ包メル絹繡ノ上ニ座シ以テ日露戰爭ニ及ヘリ

德ノ君主トシテ人心深ク之レニ信賴スルヤ露公使ハ夜中其宮閣ニ闖入シ之レヲ奪フテ幽セシメシカ如キ歴史中亦多ク其比ヲ見サル處ナリ
露帝亞歷山三世ハ佛露同盟ヲ夙ニ熱望セシト雖モ佛ノ大統領「グレビー」時代ハ「グレビー」ノ獨行政策ノ爲メ成ラス「カルノー」大統領タルニ及ヒ露佛漸ク接近シ來リシト雖モ彼ノ先帝ノ玉車顛覆ノ下手人タル「ハルトマン」及虛無黨ノ一首領「クラボトキン」公爵ノ佛國追放問題ハ常ニ露佛ノ外交ニ故障ヲ生シ遷延シ其ノ治世ノ晩年ニ至リ漸ク締結セラル
中央亞細亞ハ先帝ノ時ヨリ侵略止マス帝ノ世ニ至リ益々擴張ス亞歷山三世崩シ皇太子位ニ即ク之レヲ尼古來第二世トス
尼古來二世ノ即位ヨリ今日迄ノ出來事ハ深ク吾人ノ腦裡ニ存スル所ナルモ其著シキモノヲ舉ケンニ帝ハ芬蘭土ニ對シ露化主義ヲ取り内相「ブレヴエー」ノ說ヲ納レ芬蘭土ニ專權者ヲ置キ其憲法ヲ蹂躪シ

第二章 土地及農制、州郡會「ゼムストボー」

露國ハ昔時貴族ノ軍功ヲ賞スルニ土地ヲ以テセリ然ルニ土地ノミニテハ收穫上ラサルヲ以テ之レニ地附ノ農民ヲ結ヒ付ケ奴隸トナシ又其耕力ヲ永遠ニ維持スル爲メ其ノ土地ヲ離レ其主ヲ替ユルヲ禁シ貴族ハ其領土ノ民ヲ以テ兵賦ニ應セリ

然ルニ亞歷山二世ハ時勢ノ必要ニ迫マラレ貴族ニ奴隸解放ヲ促セリ貴族ハ當時奴隸ヲ解決スルニハ異論ナカリシト雖モ解放セラレタル奴隸即チ農民ニ土地ヲ與ヘスンハ解放ノ實ナキヲ以テ土地分與ノ必要ヲ生セリ故ニ其耕地ノ一部ヲ純然タル貴族ノ不動產トナシ他ノ一部ヲ農民ノ口數ニ應シ其糊口ノ道立ツ丈ケノ地面ヲ割與シ之レヲ農民共有ノ不動產トシ若干戸毎ニ相集マリ ミル 即チ社ヲ組成シ又農民ノ借家ヲ其所有ニ移ス爲メニハ政府ハ農民銀行ヲ立テ之レヨリ貸金シ漸次拂込ノ方法ヲ立テタリ社會主義者ノ所謂共同財產制ナルモノノ雛形ハ此ノ如クニシテ獨リ世界無比ノ專制國タル露國ニ見ルニ

至レリ

然シテ右ノ社^{ミル}ナルモノハ自治ノ制ヲ有シ選舉ニ依テ其長ヲ定メ數社相合シテ「ヴヲロスト」即チ村ヲ成シ各「ヴヲロスト」ハ選舉ニ因テ其長ヲ定ム

「ゼムストボー」ニ復タ二種アリ「ウエスト」即チ郡ノ「ゼムストボー」ハ其郡内ノ貴族團、「ミル」國町團カ相集リテ議員ヲ選舉シ其選舉セラレシ議員ハ復タ相集テ縣ノ「ゼムストボー」議員ヲ選舉ス其議員ノ任務ハ地方ノ衛生公共事業道路等ニ在リ然レトモ農民ハ卑屈ニシテ自然州ノ議員タルヲ氣兼スルヲ以テ貴族多ク選ニ中ル亞歷山第二世ハ仁慈的ノ意ヨリ奴隸ヲ解放セシト雖モ亦之レニ伴フ種々ノ困難ヲ生セリ抑々貴族ハ奴隸ノ身ヲ自由ナラシムルコトヲ承諾シ其永世不動ノ財產ト思惟セル土地ノ一部ヲ割キ政府ニ獻納シ各地ニ農ノ自治團ヲ起スニ至リシ以上ハ政府自由擴張ノ意思ハ獨リ農民ニ止マラス貴族自身モ亦享受セサルヘカラスト言フニ在リ且貴族中

ニハ此ノ改革ノ爲メ俄ニ小作人ヲ減シ資産ヲ衰頽セシメタルモノモ生スルニ至レリ
 於是貴族中ニハ其忠勤ノ報酬トシテ憲法及言論ノ自由ヲ得ント欲スルモノト家産衰頽ノ爲メ政府ヲ恨ムモノトノ二派ヲ生セリ
 政府ハ貴族農民土地ヲ斯ノ如ク分明ニ劃定シ奴隸ヲ解放セシト雖モ農民ニ與ヘシ地積ハ甚タ狹窄ナリシヲ以テ一方ニ於テ農民ハ殆ント糊口ニ苦ムニ至レリ於是頑愚ナル彼等ハ謂ヘリ吾父吾祖父ノ耕セシ土地ハ實ニ廣大ナリシ然レトモ分配ノ際政府ハ多ク貴族ニ與ヘタル爲メ農民ノ耕地ヲ減セリ吾父吾祖父ノ住セシ家屋ニ對シ吾人ハ之レヲ購買スルノ義務ヲ負擔セシメラルト反テ政府ヲ怨ムニ至レリ而シテ後チ人口ノ増々蕃殖スルニ從ヒ其耕地ノ狹小ナルニ一層ノ苦ミヲ感シ今日ニ於テハ農民ノ多數ハ辛フシテ生活スルニ過キス
 亞歷山二世カ非常ノ勇斷ヲ以テ決行セシ奴隸解放ノ結果ハ諸方面ニ於テ却テ不平ノ種ヲ蒔クニ至レリ然シテ此ノ農民奴隸制ハ露ノ藩屬

タル芬蘭土及高加斯等ノ地方ニナク最モ多キハ却テ純露ノ中心莫斯科及其他露ノ根本タル地方ニアリ故ニ土地問題ノ不平ハ純露ノ域ニ最モ熾ナリ
 尤モ貴族封邑ノ外尙莫大ノ帝室地アリテ農民奴隸ノ制ヲナスモノアリシカ之レハ貴族封内ノ農民ニ比シ稍ヤ割合ヨク土地ノ分配ヲ受クト云フ
 免ニ角農民制度ハ露國ニ於テハ一種ノ不平ノ種ヲ殘セリ
 況ンヤ其後亞歷山三世及今帝ノ世ニ方リ「セムストボー」制度ノ自治ヲ拘束スルノ手段ヲ取り民選ノ「ミル」或ハ「ヴヲロス」ノ長ノ側ニ官選ノ吏員ヲ附シ政府ノ干渉及威力ヲ濫用スルニ至リシヲ以テ農民ノ不平及政府反對黨ノ憤激ヲ誘起スルニ至レリ

第三章

虚無主義、無政府主義、社会主義
起因、學說及其ノ活動

虚無無政府社会主義ノ義解ハ哲學上ノ學域ニ屬ス幾多ノ碩儒其差異ヲ辯論分析シ所見百出殆ント底止スル所ナシ
虚無主義ハ「ニコラス」第一世ノ世ニ於テ十二月黨及大佐「ベステル」ニ其遠源ヲ發シ今ヲ距ル約五十年前ニ於テ漸ク世ニ顯ハル其主義ハ今日歐米諸國ノ無政府ト酷ク相類似ス當時露ノ學生ニシテ西歐ノ文化ヲ追フモノ其共產的汎愛的哲學ノ理想ヲ偏信シ更ニ一種ノ理想ヲ産ミ出シタルモノニシテ其說ニ曰ク西歐ノ文華モ澆季ナリ左レハ逆テ露國ノ文物ハ猶更ラ取ルニ足ラス現世更ニ取ルヘキ文物道義ナシ須ク世界ヲ打破シ新天地ヲ開キ圓滿ナル人生幸福ノ道衆生安堵ノ法ヲ講スヘシト

此道學ハ寧ロ理想ヲ説クモノニシテ實行ヲ示サス故ニ革命家カ其叛亂暴動ヲ目的トスルモノトハ全ク別物ナレトモ理想ノ窮ル處復タ自ラ理想ノ奴トナリ革命手段ヲ講スルヲ以テ終ニ虚無主義ハ革命或ハ

叛亂ト相混スルニ至レルカ如シ
此道學ノ開祖ハ哲學家津和野、篠令、滅洗、馬國ノ徒ニシテ此ノ道學ヲ志スモノヲ若露ト稱ス

當時若露ノ男女ハ自ラ親シク賤民ノ疾苦ヲ實驗スルニ熱中シ富豪ノ子弟ニシテ終日ヲ執テ小農ト伍スルモノアリ顯門ノ令嬢ニシテ傭婢トナリ厨婦トナリテ勞役ニ服スルモノアリ而シテ其ノ理想益々進ミ論理ノ傳道ハ頻リニ抑制セラルルヲ見ルヤ手段ノ如何ヲ選ハス其目的ヲ達スルヲ勉メ終ニ秘密結社ヲ組織シ如何ナル凶行モ猶且之レヲ辭セス如何ニモシテ其目的タル衆生幸福ノ理想ヲ貫徹センコトヲ求ムル意ヲ堅フスルニ至レリ故ニ虚無主義ハ論理ハ立派ナルモ實行ノ出來サル空理ニ屬スルコト他ノ類似ノ道學ト一般ナリ

虚無黨ハ一千八百七十九年ニ於テ二派ニ分レ共ニ社会黨ノ名稱ヲ取レリ即チ其一ヲ革命社会黨トシ「ナロドナイヤヴォリヤ」ヲ其機關トシ他ノ一ヲ民權社会黨トシ「ベレダヂヤ」ヲ其機關トシ共ニ秘密

獨塊ニテハ之レヲ治安妨害者トシテ驅逐ス此ノ虛無黨ハ其後分レテ
二派トナレリ現今革命社會黨及民權社會黨ト稱スルモノ是ナリ

結社ニシテ革命社會黨ハ社會主義ヲ名目トスルモ其實無政府主義ヲ
取ル彼ノ茶猪子團ハ此黨ノ骨髓トナレリ民權社會黨ハ純然タル社會
主義ニシテ彼ノ獨逸ノ「ベーベル」等ノ黨ト其歩調ヲ一ニス
無政府主義社會主義ノ定義ヲ分析センニハ哲學上ノ解釋區々ニシ
テ博士白虎、馬國、不屯、麻塞、呂波等ノ諸大家說ヲ同フセサル點
多シ然レトモ唯一言ニ之レヲ約言セハ社會主義ハ生産ノ資本即チ土
地、水、不動産、器械ヲ共有之財産トシ生産物ノ配當ヲ公共ニスル
ニ在リ其結果富者ノ利益壟斷ヲ妨害スルニ在リ博士「ハモン」ハ王
安石ヲ以テ社會主義道學ノ最モ古キ一人ニ數ヘリ普通ノ原則トシテ
社會主義ハ暴力ヲ用フルモノニ非ス此主義ハ佛、以、西、獨ノ諸國
ニ浸々トシテ進ム無政府主義ハ社會ハ相互ノ相談協商ニ因テ支配ス
ヘキモノニシテ命令者ノ存在ヲ必要ナラスト言フニ在リ故ニ堯舜ノ
政治ハ無爲而化スト云フモノ蓋シ其理想ナラン無政府黨ハ其目的ヲ
達スルノ手段トシテ爆烈彈匙首ヲ用ユルヲ常トス故ニ無政府黨ハ露

第四章 露國內不平黨ノ類別

其一 露國革命社會黨

「ナロードナイヤヴツリヤ」虛無黨甲派ノ化身タル此黨カ他ノ社會主義ノ歐洲諸黨派ト其趣ヲ異ニスル處ハ到底言論術數ノミヲ以テ目的ヲ達スルニ足ラス暴力ヲ以テ之レヲ爭フヲ第一要義トナシ即チ其核心ハ死士ヲ以テ一團トセル決行組ヲ有セリ而シテ其戰術ハ威嚇手段ヲ用ユルニアリ

同黨ノ目的ハ其建黨ノ當時ヨリ今日迄變スルコトナク國政ヲ監督スヘキ常開ノ議院ヲ設クルコト吏員ヲ公選ニスルコト經濟及行政上ノ單位タル村制ノ完全ナル自治、演說、出版、集會、選舉ノ自由全國民ニ投票權ヲ與フルコト常備軍ヲ廢シ地方民兵制度ヲ取ルコト土地ヲ國有ニ移スコト是レナリ

又此黨ノ綱領中他ノ諸國社會黨ト稍々其趣ヲ異ニスル所ハ農及土地ニ最モ重キヲ置キ却テ製造職工ノ共同財産法ヲ後ニスルコト是レナ

S 12.2.1.0-1

367

リ其理由ハ露國ノ農民ハ其「ミール」共耕地制ノ爲メ農民自治ノ制度ハ比較的經驗アルモ露國ノ製造業ハ尙幼稚ナルヲ以テ之レヲ次等ノ必要トナシ當分差支ナシト云フニ在リ

此ノ如クナルヲ以テ其黨員ハ自然農民ニ多ク職工ハ之ニ亞ク此ノ黨派ハ其目的ヲ達スルカ爲メニハ帝室ヲ廢スルコト最モ急務ナリトノ主義ヲ取ルモノナリ而シテ其黨派中最モ過激ナルモノトス

其二 民權社會黨

ペレダチヤ 虛無黨乙派ノ化身タル此黨派モ亦勢力頗ル大ナリ其主義目的ハ大體前者ト相同シ

唯タ革命社會黨ト異ナル主要ノ點ハ社會黨ノ本義ヲ守リ威嚇の非常手段ヲ用ユルヲ忌ムト農問題ヲ度外シ專意職工保護ヲ目的トスルニ在リ

此黨ハ明治三十七年秋ノ巴里合同會議ニ離レ三十八年四月「ジュネーヴ」會議ニ離レ單獨動作ヲ取リシカ其理由トスル處ハ純然タル社

S 12.2.1.0-1

368

會主義ノ原則ヲ守リ暴力ヲ用ユルヲ喜ハサルニ因ルト云フニ在ルモ
他ノ一面ヨリ其ノ胸中ヲ窺ヒハ彼等ハ大黨派タルノ面目上其ノ競争
者タル革命社會黨カ特色ノ戰術タル暴力應用ニ表面上附従スル能ハ
サル一種ノ嫉妬心ニ出ツルコトモ亦タ一原因タリ此黨中ノ過激派「
レーニン」ノ一派ノ如キハ連合運動ニハ加ハラサルモ政府攻撃ニ對
シテハ成ルヘク革命運動ヲ援助スルコトヲ力メント聲言シ其實武器
ヲ取ルモノモ亦其黨員中ニ少カラス又自ラ多數ノ拳銃ヲ購買セリ
三十八年一月二十二日ノ變ノ如キ此黨ノ側面運動ハ僧^{ガボン}瓦本ヲシテ名
ヲ成サシメタル大部ヲ占ム

右兩黨共誘説ハ從來亦甚タ熱心ニ行フ茲ニ一ノ逸話アリ
往時某隊ノ將校カ兵卒室ヲ巡視スル際偶々二三名ノ兵卒一小冊子
ヲ讀ムヲ見ル將校ノ至ルニ及テ兵卒之レヲ衣囊ニ隠ス將校奪フテ
之レヲ視レハ民權社會黨ノ檄文ナリ將校默シテ去ル兵卒憂苦措ク
處ヲ知ラス後數日民權社會黨ノ委員兵卒ニ報シテ曰ク足下等吾黨

ノ檄文ヲ奪ハル思フニ大ニ痛心セラルナラン然レトモ憂フルコト
ナカレ卿等ヨ彼ノ上官タル將校ハ革命黨ノ黨員ニシテ其檄文ヲ奪
フヤ之レヲ革命黨本部ニ通知セシヲ以テ今日始メテ同兵營ニ兩黨
ノ誘説行ハルルヲ知ル云々ト

其三 自由黨

自由黨ト單ニ稱スルモノ内ニハ其硬軟ニ大ナル濃淡ノ差アリ
自由黨中ニハ帝政ヲ保護シ諸般ノ改革ヲ行ハントスルモノアリ例令
ハ「シーボフ」派ノ如キ即是ナリ又進歩セル「トルベツコイ」公爵
「スタホーヴツチ」ノ如キ稍々是ヨリ潔キモノアリ是等ハ所謂自由
黨中ノ憲法派ト稱スルモノニシテ完全ナル憲法ノ制定ヲ望ムモノナ
リ

然レトモ自由黨中ノ進歩派ニ至テハ大ニ之レト趣ヲ異ニス即チ素^{ストル}
密^ド杜^ル公爵等ノ率ユルモノニシテ「ヲスボ、ジュデニー」ヲ以テ其
機關新聞トナス進歩派ハ民政主義ヲ取ルモノニシテ全國民投票權ヲ

得ルヲ其目的トナスモノナリ此黨ノ決心ハ未タ革命ニ因テ目的ヲ達スル迄ニハ進マスト雖モ該派中ノ急進者ハ革命社會黨ノ決行組ニサヘモ加擔スルモノアリ要スルニ自由黨ノ進歩派ハ一般ノ革命運動ニ對シテハ少クモ間接ノ補助ヲ與フルモノタリ此黨派ハ専ラ言論ヲ主トシ「セムストボー」集會等ニ因テ平穩ニ露國政府ヲ苦シム自由黨ハ一般ニ貴族學者等中上流ノ人多シ然レトモ同盟罷工或ハ暴力手段ニ至テハ此黨ノ爲シ能フ處ニ非ス

其四 「ブンド」黨

「ブンド」黨ハ猶太勞働者ノ祕密結社ニシテ社會主義ヲ持シ又猶太教徒ノ境遇改良ヲ其目的トス此黨派ハ革命運動ニ何時ニテモ隨從スヘシ近時露國民權社會黨ト全ク相提携ス

其五 「アルメニヤ」黨

「ツニ之レヲ」ドロシヤクト稱ス「アルメニヤ」國民社會黨ナリ此黨ノ目的モ完全ナル自治ヲ得猶ホ進ンテ其地方ニ獨立ノ行政ヲ行ハントスルモノニシテ其目的ヲ達シタル後露國ノ版圖ヨリ全ク離脱スヘキヤ或ハ聯邦制ニ因リテ提携スヘキヤハ未決ノ問題ニ屬ス是レ「アルメニヤ」ハ露國及土耳其ノ間ニ介立セルヲ以テ露ヲ離ルレハ土國ニ對シ一層ノ苦痛ニ遭遇スルニ至ルノ恐レアレハナリ兎モ角モ「アルメニヤ」カ今日ノ苦ヲ脱シ地方ノ自治ヲ得ルニ至ルノミニテモ速モ容易ナル事業ニアラス是非共暴力ニ因リ革命ニ因リ其目的ヲ達スルヨリ外手段ナシ故ニ「アルメニヤ」黨ハ今ヤ露國內諸反對黨

ノ勃興ヲ機トシ革命運動ニ因テ其目的ヲ達セント決心セリ因ニ云フ
「アルメニヤ」人種ハ露領土耳其領波斯領ニ三分セラルルコト恰モ
波蘭土カ露獨逸ニ三分セラレ居ルト均シ而シテ露領ノ「アルメニヤ」
ハ商賈多ク商業盛ナリ「バクー」地方ノ如キ是ナリ

其六 「ゲラルギー」黨

一ニ之レヲ「サカルトヴェロ」黨ト稱ス地方國民社會黨ナリ然レト
モ「ゲラルギー」地方ハ一殺ニ開化ノ度低ク人民慄悍ニシテ武ヲ好
ムヲ以テ普通ノ社會黨ノ如ク溫和ナラス匙首爆烈彈ヲ弄スルコト多
シ此黨ノ目的トスル處概ネ「アルメニヤ」黨ト同シ而シテ「チフリ
ス、バツーム」等其根據地中ノ重ナルモノナリ

其七 列屯黨

列屯黨モ國民社會黨ナリ彼ノ獨逸露西亞或ハ「バルチツク」沿岸州
ト稱スル「リボニヤ」「リチニア」地方ニ在ル過激黨ニシテ開
戦前迄ハ著シキ運動ヲ見サリシモ開戦後其ノ氣勢ハ漸次劇烈トナリ

S 12.2.1.0-1

373

今日ニ於テハ革命諸黨中最モ活潑ナルモノノ一ニ屬ス其運動ハ殊ニ
明治三十七年八月十六日以後ニ於テ見ルヘキモノ多シ

其八 芬蘭土憲法黨

此黨派ハ芬蘭土ノ純然タル國民黨ナリ此黨派ハ自重シ幾度ヒカ劇烈
ナル方針ヲ取ラントシ幾度ヒカ逡巡シ常ニ芬蘭土ノ一敗地ニ塗レン
コトヲ恐レテ一刀兩斷ノ處置ヲ取ルニ迷ヘリ唯々其芬蘭土ノ完全ナ
ル自治制成シ得レハ其獨立マテヲ獲得セント欲スルノ情ハ甚タ熱心
ナルモ暴力ニ依テ之レヲ求ムルハ國ヲ誤ルノ危險アリトナシ未タ十
分決心スル能ハス抑モ芬蘭土ハ露ノ藩屬國中ニ於テ最モ優等ノ自由
ヲ得ルモノナリ芬蘭土ハ歐洲中英國ニ亞テ憲法政治ヲ有スル最善國
ナリ露帝ノ芬蘭土ニ對スル權ハ唯芬蘭大公トシテ最上裁判權ヲ有ス
ルニ過キス芬蘭土ノ議員ハ即チ芬蘭土ノ國務大臣ナリト云フモ可ナ
リ此ノ如クナルカ故ニ原則上芬蘭土ハ其固有ノ憲法ノ命スル處ニ因
テ露國皇帝ハ唯芬蘭土大公タルノ資格ヲ以テノミ裁判權ヲ有スルニ

S 12.2.1.0-1

374

過キス芬ノ露ニ對スルハ恰モ匈利ノ境地利ニ於ケルカ如ク威諾ノ瑞
典ニ於ケルカ如キ關係ヲ有スルニ過キサルモ近時露化政策ノ結果芬
蘭土ノ憲法ヲ蹂躪スルニ至リシヲ以テ芬蘭土一般ノ怨恨ヲ挑發シ其
憲法ノ擁護上諸種ノ手段ヲ以テ露化政策ノ侵入ヲ妨害スルニ至レリ
此黨ハ露ノ自由黨ノ急激派ト親善ニシ其力ヲ利用スルコトヲ努ム

其九 芬蘭土過激反抗黨

此ノ黨ハ國民的觀念ニ付テハ憲法黨ト叔伯ノ關係ヲ有ス然レトモ其
ノ取ル處ノ運動方針ハ全ク純露ノ革命黨ト協同ス此黨ノ意見ハ芬蘭
土或ハ芬蘭土、高架斯ノミヲ以テ露國ヲ動カスヲ得ス露國ノ根本ヲ
打破スルハ純露人ノ革命者ナラサル可カラサルヲ以テ之レト同盟シ
其運動ヲ助勢スルコト露領ノ民族一般ノ自由ヲ獲得シ又之ヲ維持ス
ルノ道ナリト信シ深ク露ノ革命社會黨（寧ロ昔ノ虛無黨中ノ過激派）
ト結托シ以テ革命ノ目的ヲ達セントスルモノナリ故ニ此ノ黨派ニ限
リテハ一面ニ芬蘭土國民黨タルト共ニ又一面ニ於テハ露國革命社會

黨ノ一派ニシテ其運動ハ全ク之ト共同ス

其一〇 芬蘭土國民黨

波蘭土國民黨カ自重逡巡ノ狀態ハ芬蘭土國民黨憲法黨ト酷似ス此黨カ
露ヲ仇怨スルニ拘ラス其動作ノ活潑ナラサルハ一敗地ニ墮ルノ時波
蘭土ノ永遠不幸ヲ醸スヲ恐ルルト獨逸カ其慮ニ乘シ波蘭土ヲ蹂躪ス
ルヲ懸念スルニ在リ其運動方針ハ專ラ文學ニ關シ波蘭土ノ上流者及
農民此黨ニ屬ス

其一一 波蘭土社會黨

此黨派ハ諸黨派中最モ激烈ナルモノノ一ニ屬ス其領域ハ專ラ波蘭土
ノ職工ニ屬ス此ノ黨派モ亦任意露國ト離合シ得ヘキ波蘭土（自治制）
ヲ作ルヲ第一ノ目的トナス其勢力頗ル大ナリ

其一二 波蘭土進步黨

波蘭土國民黨及社會黨ノ各一角ヲ拾綴シテ編成セル一派ナリ

其一三 小露西亞黨

小露西亞民族ノ再興ヲ計ルモノニシテ其人員地域頗ル廣大ナルモ其組織ハ未タ完全ナラス要スルニ小露西亞地方ハ露國革命黨ノ根據地多ク「ボトリ」―「キエフ」―「ヲテッサ」―「セバストボル」―「クルスリ」等重ナル都府ハ寧ロ革命黨ノ版圖ニ屬ス

其四 白露西亞黨

此黨モ亦社會黨ニシテ地方自治ヲ得ルヲ其目的トス

其五 瓦本黨

瓦本黨ハ僧瓦本ノ黨與ニシテ露都ノ職工ニ多シ二月二十二日ノ事變ニハ暴動ノ核心トナレリ其目的ハ寧ロ革命社會黨ト同シク其運動ハ常ニ之レト共ニスルモ統率者ノ名ヲ黨名トスルヲ異ナグトス之レヲ要スルニ現政府ニ對シ反抗ノ意ヲ抱クモノ以上ノ諸黨ニ止マラス輒輒種族アリ同教徒アリ舊教アリ其他小黨小種族ニ至リテハ之ヲ詳ニスルニ遑アラスト雖モ其組織ハ甚不完全ナリ

S 12.2.1.0-1

377

第五章 諸運動ニ關係アル重要人物 茶猪子(テイコウジ) 電報報告ニハ「純露人」 Cト略號セリ

革命黨ノ老魁ニシテ前章述フル所ノ昔時虛無黨中最モ激烈ナル茶猪子派ノ長ニシテ冬宮爆裂ノ主謀者「セリヤボフ」、莫斯科皇帝車轉覆ノ主謀者「ハルトマン」、亞歷山二世暗殺者タル「ウエラヘレウスカヤ」等ハ其門下タリ彼ハ多クノ哲學的著書ニ依テ世間ニ其名ヲ知ラル其主義ハ寧ロ無政府主義ナレトモ今ハ革命社會黨ノ元老トシテ總務委員ノ一人ナリ連合運動ノ發意彼レヨリ出テシコトハ他ノ黨派及其黨友中ニモ之ヲ知ラサルモノ多シ

倉保公爵 純露人

舊茶猪子派ノ一首領ニシテ哲學者ナリ著書頗ル多ク寧ロ理論的ノ無政府主義ナリ嘗テ異宗教徒虐待ニ關シ「トルストイ」伯ト連署力爭セシコトアリ又二國同盟ノ際彼ハ佛國ニ潛匿シ居リ佛ノ外相「フレシネー」カ之レヲ庇護シタリト云フコトヨリ露帝ノ感情ヲ

S 12.2.1.0-1

378

害シ二國同盟ニ遷延ヲ來シタルハ歴史上ノ事實ナリ其近時暴力ヲ好マサル爲メ今回ノ事件ニハ直接關係セサリシト雖モ右ノ茶猪子ト老友ナル爲メ下文ノ「チエルカツソフ」ト共ニ常ニ間接ノ補助ヲナセリ今春來歐洲二三ノ新聞記者ハ露國ノ内政ニ就キ倉保ノ時事談ヲ掲ケシカ何レモ革命運動ニ聲援ヲ與ヘタリ

チエルカツソフ
決ルケツ
高架斯人

著書頗ル多ク右兩名ト共ニ嘗テ同志タリシ老人ニシテ其學說ハ諸種ノ政事哲學ニ引用セラレ「チエルカツソフ」モ亦茶猪子ヲ今回ノ運動ニ就テハ間接ニ補助シタルニ止ル

武烈老女
純露人

舊茶猪子派ノ一人ニシテ革命黨員ナリ昨年四月ノ「ジュネーブ」連合會ニ於テハ革命黨ニ押サレ議長席ニ就キシコトアリ最モ過激ナル一人

ワシホウスキ
純露人

以上ノモノト均シク又舊茶猪子派ノ老人ニシテ目下革命黨總務委員ノ一人

五ツツ
純露人

革命黨ノ重タチシ一人明治三十六年秋露國皇帝伊太利王訪問ノ風聞アルヤ伊太利ノ社會黨ニ因テ露國皇帝ノ入國ヲ妨害シ「タルムスタツド」ヨリ露帝ハ北還スルニ至リシハ「ゴツズ」當時伊太利ニアリテ運動セシニ在ルコト當時ノ新聞ニモ見ユル所ナリ

デカンスキ
純露人

革命社會黨總務委員ニシテ又戰闘群ノ長タリ彼ノ名「デカンスキ」カ眞ノ名ナルヤ假名ナルヤヲ詳ニスルモノ少シ彼ハ戰闘群ノ長トシテ數々露國內ニ在ルノ必要アル故總務委員ノ外某本名ヲ知ラス肥滿沈著ニシテ革命黨中最モ勢力アル國內首領ナリ内相、莫斯科親王ノ暗殺主謀者ニシテ亦黑海艦隊叛亂ノ誘發者タリ

ソスキ
斯

革命社會黨ノ重ナル一人ニシテ茶猪子ノ補助者タリ
留バノウツチ
革命社會黨巴里ノ常置委員
布レバノ 純露人
民權社會黨ノ首領ニシテ「イスクラ」機關新聞ノ社長
禮ニ
民權社會黨ノ領袖
公爵杜兒 純露人
其一族ハ朝廷ノ要路ニ瀾蔓セリ現帝室ノ前朝即チ「モスコ」開
祖ノ露帝「ドルゴルギー」家ノ後裔タル露國第一ノ名家ナリ公
爵ハ自由黨過激派ノ首領ナリ巴里會議向黨ノ代表者ナリ
大博士密郎 純露人
元莫斯科大學ノ教授巴里會議ノ代表者革命社會黨戰闘群ノ客員ニ
シテ自由黨過激派ナリ

素トルベ 純露人
自由黨過激派ノ首領ニシテ「ラスボ、ジユデニエー」ノ主筆
牧シムヨキ 純露人
有名ナル著述家黨派ハ何レニモ屬セス自由革命民權三黨ノ間ニ奔
走ス
僧瓦本 純露人
僧ハ一月二十二日ノ變以來最モ著名トナリ僧ハ其子分タル「カボ
ンノフ」ト云ヘル職工團體ヲ有シ又革命黨ノ客員タリ
蠅仲 純露人（歸化佛人）
元革命社會黨員ニシテ今ハ歸化シテ佛國ノ籍ニ在リ露國政府反對
ノ爲メ巴里ニ設立セル露民同情會幹事タリ
知矢 電報中ニ幹事 芬蘭人
元裁判所判事タリ辯護士タリ現今ハ著述業ニシテ露國革命社會黨
ノ別働隊トシテ編成シタル芬蘭土反抗過激黨ノ首領ニシテ巴里會

議長長タリシ
 ウィクトル フルヘルム 芬蘭人
 元裁判所判事ニシテ今辯護士タリ前同人ト等シク國外追放者ニテ
 右向黨副首領也
 ヲ
 狼 フ 芬蘭土人
 元「ヘルシングホル」英國名譽總領事タリ右向黨副首領ニシテ佛
 國「ランフルー」製紙會社持主
 法學士 葉 波蘭人
 波蘭土社會黨總務委員
 マリノウスキ
 波蘭土社會黨總務委員元鐵道技師
 波蘭人社會黨總務委員
 波蘭土社會黨總務委員元鐵道技師
 波蘭土社會黨總務委員
 波蘭土國民黨總務委員

罵 好
 右 同
 公爵米里 「アルメニヤ」人
 「アルメニヤ」社會黨ノ重ナル一人「アレキサンドル」二世ノ宰
 相元帥「ローレスメリコフ」ノ甥
 マルミヤン
 同黨總務委員「ドロシヤク」主筆
 フランチャ
 和 覽
 同 右
 出カノジ 高架斯「バツーム」ノ人
 「ゲタルギー」社會黨總務委員元露國宮内省書記官タリシコトア
 暴 瑞 士 人
 無政府（瑞士）黨員自動車商店主人

直デキン 孫 英國人
 露國革命社會黨ノ銀司也本業ハ酒屋
 洩モルトン 米國人
 米國無政府黨員
 奇キヤール 佛國人
 佛國無政府黨員「ウーロベアン」及「プロアルメニヤン」雜誌記
 者ニシテ露民同情會員
 民ミン 加カ
 實名ナルヤ否ヤヲ知ラス「レットン」社會黨總務委員
 眞トイトマン 男
 同黨員ニシテ元「ビンドウ」港務長
 張ハントシ 曼
 革命黨員ニシテ爆裂彈製造技手
 暴ウマシ 慢

「レットン」社會黨員
 糟カストン 戸
 芬蘭土憲法黨ノ首領
 鐵アスレフ 令
 元露國參謀大尉也憲法黨ノ革命委員
 亥イグチチ 那 ス
 右 同
 博士朗照
 同 右「ヘルシングホル」大學教授
 不ロコツ 老
 同 右辯護士

第六章 不平黨運動顛末

露國ノ政海ニ激烈峻惡ナル不平ノ暗潮アルハ何人モ之ヲ語り歴史モ亦之ヲ述フ然レトモ其手掛ヲ得其真相ヲ確メントスレハ漠然トシテ近寄ルヘキノ岸ナシ是レ所謂不平黨ナルモノハ悉ク秘密結社ニシテ何人カ真正ノ不平黨ニシテ何人カ誘發露探ナルヤヲ判明スルニ由ナク殊ニ其首領ノ姓名住所ニ至テハ最も秘密ニ付シ人ニ知ラシメス況ンヤ首領等ハ多クノ姓名ヲ有シ交々之ヲ變スルヲ以テ容易ニ之ヲ查出スルヲ待ス唯露ノ探偵ノミハ往々首領株ヲ知り之ヲ追尾スルモ露獨兩國ヲ除キハ之ヲ如何トモスルヲ得ス是レ歐洲ノ政客ニ對スル制裁ハ全ク自由ナルノミナラス到ル處學士或ハ紳士ノ之ヲ庇護スルアルヲ又彼等ハ本業トシテハ執レモ立派ナル生活ヲナシ堂々タル席上ニ出入シ縉紳ト交際ス其一二ノ例ヲ擧ケンニ幹事知矢ノ妻ノ如キ交際場裡ニ歡迎セラルルヲ見ル嘗テ前駐日本獨逸公使タリシ伯爵「ライデン」ノ宴ニテモ偶然同席シタルコトアリキ而シテ黑溝臺ノ大

三十六年元旦於露都
何學他家拜後塵 任他閉戶讀書人
除期大學晚成日 先祝今年四十春

三十六年四月
杖劍東西春又秋 家山萬里未知愁
談兵夜半露城雪 千丈氣焰衝斗牛

三十七年二月五日開戰夜
城中夜半聽鷄鳴 蹴枕窓前對月明
想得鴨江營裡景 只看一劍斬長鯨

如何ニシテ有力者ニ接近シ其説ヲ叩クヘキヤニ至テハ茫トシテ捉フヘキノ影ナカリシ明治三十六年三四月ノ頃ナリト覺ユ芬蘭土ニ於テ不平黨追放ノ事アリテ地方ニ紛擾アリ當時芬蘭土ニ旅行シ機會アラハ之ニ接近ノ道ヲ求メント欲セシモ當時露語甚タ未熟ナリシ故上田仙太郎ニ語リシニ其諫止スル所トナリ思止リシカ其一二名ノ姓名ハ記憶シタリキ後「バログトガラシタ」(註)（三十六年ノ終或ハ三十七年ノ始メノ報告）カ「ストツクホルム」ニアル不平黨首領ノ住居ヲ告クルニ及ヒ右追放者ノ姓名ト符合セルヲ以テ之レト會見セントノ意ヲ生セシモ當時日露ノ形勢ハ日ニ切迫シ一日モ露都ヲ離レ得サルノ場合ナリシヲ以テ之ヲ如何トモスル能ハサリキ又開戦前數日現瑞公使秋月君ト偶々酒店ニ在リ坐ニ一紳士アリ大學教授ニシテ新露派ヘ新露トハ虚無黨ノ語ト歴史ニ見ユナリト稱シ接近シ來リ頻リニ杯ヲ舉ケ應酬セルコトアリキ其果シテ眞新露派ナルヤ露ノ探偵ナルヤハ之ヲ知ルノ由ナカリシモ良シ露探ナルモ新露派ナル名稱ハ本國ノ

將「グリソペンベルグ」ノ從兄タル男爵「グリソペンベルグ」ハ芬蘭土憲法黨ノ一領袖ニシテ追放者タリ又遞信大臣「ヒルコフ」ノ弟公爵「ヒルコフ」ハ革命黨ノ有力者ナリ鴨綠江ノ敗將「サスリビツチ」ノ姊ハ昔時露都ノ警視總監ヲ狙撃シタル「ヴェラーサスリビツチ」ニシテ現時民權社會黨ノ一領袖ナリ其數枚舉ニ違アラヌ又嘗テ下官ノ懇意ナル追放者伯爵「マンネルハイム」嘗テ下官ニ歎シテ曰ク予カ弟ハ大佐ニシテ今ヤ「ミスチエンコ」將軍ニ從ヒ貴軍ト戰フ予ハ追放ノ客トナリ君ト共ニ露軍ノ敗滅ヲ祈ル唯予ハ兄弟ノ情トシテ彼レカ無事ナランコトヲ思フト斯ノ如ク關係錯雜セルカ故ニ不平諸黨首領ヲ求メ出シ之ニ接近スルハ尤モ困難ノ業タリシ終リニ不平黨ト關係ヲ開キタル頗末ハ左ノ如シ

在露都留學生上田仙太郎カ大學學生間ニ於テ傳聞スル所續テ上田ニ依頼シ語學教師トシテ聘シタル大學生「ブラウン」トノ會話談中ニ於テ不平ノ徒ノ大學ニ多ク又地方ニモ多少之アルヲ推測シ得タルモ

始メテ知ル
ヲ知ル

敵タル日本人ノ友タルコトヲ表示シタルハ大ニ謝セサルヘカラスト
考ヘ竊ニ喜ヒシコトアリキ要スルニ是等ハ露國內ニ於ケル不平ノ徒
ノ狀況ヲ推測スルノ參考材料ヲ與ヘタリ間モナク開戦トナリ露都ヲ
引上ケ伯林ヲ經テ「ストックホルム」ニ著セシハ明治三十七年二月
二十二日ナリシカト記憶ス
到著後幾モナク旅憲ヲ叩キ訪ヒ來リシハ嘗テ佛國公使館附武官トシ
テ知己ナル中佐「ヘフチー」ナリシ於此下官ハ瑞典公使館附ト表面
上名乗ルノ必要ヲ生セリ
到著當日竊カニ書ヲ憲法黨首領トシ兼テ其名ヲ聞キシ代言人「カス
トレン」ニ送リ會合ヲ求メタルニ使ハ歸リ報シテ曰ク「カストレン」
氏ハ足下ヨリ書翰ヲ受クルノ理由ナク多分人違ナルヘキヲ以テ返却
ストノ事ナリシトテ書翰ヲ返却セリ是ニ於テ下官ハ大ニ失望シタリ
シカタ刻ニ至リ白晝ヲ著ヘ高帽ヲ載ケル一紳士ハ下官ヲ訪問シ一ノ
封書ヲ出セリ封書中ニハ「カストレン」ノ親友「コンニ」知矢「ナ

ル名刺アリ且曰ク貴下カ伯林ヨリ又當旅店ヨリ「カストレン」ノ許
ニ送リシ書狀ハ正サニ到着セルモ如何ナル人ノ紹介ニ因ルカヲ解ス
ル能ハス又貴下ノ使カ安全ナル人物ナルヤ否ヲ知ラサルヲ以テ先刻
ノ貴書ヲ返却セリ請フ之レヲ恕セヨ會合ニ就テハ「カストレン」モ
予モ大ニ好ム處但シ旅店ニテハ危險ナリ明朝十一時旅店ノ前ニ立レ
ヨ而シテ同時刻ニ其前方ニ停止スル馬車内ニ予ハ在ルヲ以テ直チニ
來リ同乗セラレヨ見ラルル如ク此季節ニ於テハ當地ハ毎日降雪續キ
ナルヲ以テ曉ヲ下シ人ニ見ラレスシテ同乗會合點ニ至ルヲ得ント翌
朝約ノ如ク「カストレン」ノ家ニ會合ス此家ニ入ルヤ尤モ奇ヲ感セ
シハ正面ニ露國皇帝ノ署名アル追放狀ヲ掲ケ一面ニ我 天皇陛下ノ
御肖像ヲ額ニシ又一面ニハ典馬克皇太子（露太后ノ弟）ノ自筆ノ寫
眞ヲ掲ケアリ後ニ聞ケハ典皇太子ハ惻潑ノ性質ナラサルモ深く人民
ノ抑壓ニ反對シ其姉露太后ニ因テ屢々露皇帝ニ忠言スルヨシ蓋シ右
ノ「シヤリクス」及「カストレン」等ハ其意見ヲ洩スカ爲メニ典皇

太子ニ進謁セシコト多ク現ニ昨夏モ意見書ヲ提出セリ因ニ云フ又露太后カ實家ニ歸省セラルトキハ露皇太后亮タル「シエルバシエチ」ニ由テ事情ヲ聞クヲ常トセリ「シエルバシエチ」ハ高架斯人ニシテ國外ニ於テハ可ナリ自由ニ國事ヲ談スト云フ「サカルドヴエロ」黨ノ「デカイジ」モ亦「シエルバシエチ」ト親友ナリ又典馬克ノ稅關長「ベレンセン」ハ知矢ノ無類ノ親友ニシテ常ニ知矢ノ運動ヲ幫助ス諸右ノ會合ニ於テ下官ノ提出セル問題ハ時局ニ處スル不平黨ノ方針及露國內事情ノ通報ナリキ是ニ於テ「シリヤクス」ハ云ヘリ若シ政事上ノ事ナランニハ予ハ喜ンテ知ル處ノモノヲ足下ニ告ケン然レトモ間諜ハ吾黨ノ面目ニモ關スル故此點ハ甚タ受合難シト「カストレン」曰ク姑ク待タレヨ余ハ之レヲ友人ニ計ラント直チニ電話ヲ用ヒ招致セシハ瑞國ノ參謀大尉「アミノフ」(今秋月公使語學教師ノ名ニテ公使館ニ出入ス)ナリシ後「アミノフ」及參謀中尉「クリンゲルスチエルナ」ノ盡力ニ因リ少尉「ベルゲン」ヲ露國ニ派遣ス

ルヲ得タリ又間諜ニ支出スヘキ爲替並其差出方取扱書受付人等信用アルモノヲ要スルヲ以テ「アミノフ」ノ盡力ニ因リ其友人タル富商「^{リヒト}林士」ヲ得タリ「林士」ハ後「ゴテンベル」港ニ於ケル我名譽領事トナレリ諜報事務ハ姑ク措キ不平黨ノ事ヲ述ヘン諸君三十七年ノ三月初旬ナリシカト記憶ス知矢南歐ニ遊ンテ歸リ茶猪子^{チヤイコウキ}ノ書翰ニ接セリ曰ク露ノ革命黨ヲ中心トナシ「茶猪子^{チヤイコウキ}」ハ昔ノ虛無黨左黨ノ首領今ノ社會革命黨ハ古「チャコヴスキ」派ノ虛無黨ヲ中心トセル祕密結社「不平黨聯合運動」ハ大同意スル所ナリト若シ夫レ日本ノ國狀ヨリ云ハハ苟モ一ノ政見ヲ持シ國民ノ幸福ヲ増進セントスル志士カ國家多難ノ際ヲ利用シ擾亂運動ヲ策スルトハ何事ソトノ論ハ免レサルモ露ノ國狀ハ決シテ然ラス第一日露ノ戰爭力露國ヲ滅亡セサルコトハ何人モ確信スル所第二ハ所謂虛無黨ハ露國皇帝及政府ヲ以テ露國ヲ掠奪シ人民ヲ苦シムルノ惡魔トナシ惡魔ヲ退治シテ蒼生ヲ安スルハ天職ナリト信スルヲ以テ此開戦ヲ好機トシ運動ヲ開始セン

六月ノ末ニ至リ知矢ト其知己諸黨派トノ關係漸ク熟シ來リタルヲ以テ之ト相前後シテ巴里ニスリ該地ニアル「サカルトヴェル」黨ノ「デカノージ」^{チリヤクス}「ドロシヤク」黨ノ「メリコフ」公ニ諮リ知矢ハ更ニ倫敦ニ赴キ茶猪子^{チヤコウスキ}ニ諮リ下官ノ紹介ニ從ヒ林公使ニ謁セントシ宇都宮大佐ニ先ツ面會セリ宇都宮大佐ニ參謀次長ヨリ返電アルヤ下官ハ先ツ檄文費トシテ三千圓ヲ支出スルヲ諾セリ此間一方ニ於テハ壯士ヲ招集シ田中弘太郎中佐ヲシテ鐵道破壞ヲ教授セシメタリ後鐵道ノ破壞ヲ二三點ニ於テ試験シタルモ好結果ヲ得ス尤モ功ヲ奏シタルモノニシテ僅カニ一日間ノ列車ノ往復ヲ止メタルニ過キサリキ故ニ後ニハ終ニ之ヲ斷念スルニ至レリ

下官ハ諸黨派ノ意嚮ヲ一層確ムルノ必要ヲ感シ知矢ト共ニ公爵「ロ」レスメリコフ」ノ意見ヲ問ヘリ「メリコフ」ハ共同運動ニ付テハ強チ不同意ニアラサルモ反對黨派ノ連合ハ政府側ノ反動ヲ頗ル強フセンコトヲ恐レタリ又一方ニ於テ革命黨、民權社會黨、波蘭ノ國民

トノ考ハ茶猪子ノ如キ過激ナル一派ニハ尤モ生スヘキ理ナリシ知矢カ素德^{ネツデ}ニ歸遠スルニ方リ又波蘭土國民派ノ首領土蒸^{ドムズキ}（前出）ノ滿洲兵降參觀告提案アリシ而シテ遂ニ其日本渡行トナレリ抑モ不黨運動ニ就テハ到底有力者ノ後援ヲ仰クヲ要スルヲ信シタリキ然ルニ當時ノ駐在地「ストツクホルム」ニハ一ノ書記官カ代理公使トシテ駐在スルニ過キササルヲ以テ斯ノ如キ大問題ニ付テハ歐洲中ニテ尤モ先輩タル林（林黨）公使ニ諮ルニ如カストナシ他ノ間諜募集並土蒸^{ドムズキ}及在巴里不黨ニ會合ノ用務ヲ兼ネ獨國境國佛國英國ニ旅行シ宇都宮大佐ヲ介シ林公使ニ見ヘ大體ノ贊成ヲ得タリ

※註記 「バログトガランタ」ハ露都ニ永住スル填人ナリ開戰稍前突然公使館ニ來リ公使ニ面會ヲ求ム公使紹介者ナキヲ以テ謝絶ス秋月書記官丸毛君在席獨語露語ニ通ゼサルヲ以テ謝絶ス小官代リ接ス彼卑下シテ言ヲ避ク小官武官ナルヲ述フ彼喜ンテ談話ニ入ル要ハ革命黨ニ關ス然レトモ其人格疑ハシ是ヨリ故ヲニ往復ヲ始ム後彼レノ革命黨員ニアラサルヲ知リタルモ眞ノ革命黨ハ之ニ因テ知ルヲ得タリ所謂死馬ノ骨ヲ五百金ニ購フニ似タリ

社會兩黨高架斯ノ兩黨及菲蘭士黨等各其黨派ノ主義目的ヲ異ニシ又
地方ニ因リ固有ノ希望アルヲ以テ宣言書ハ到底何レノ黨派ヲモ満足
セシメ得サルヲ心配シタリキ
「サカルトヴェロ」黨ハ資力ニ頗ル缺乏スルヲ以テ若干ノ補助ヲ得
ハ其方法ノ如何ヲ問ハス連合動作ニ加ハルヘキヲ該黨巴里委員「デ
カノーシー」ニ因テ發言セリ
不平黨ノ巢窟ハ瑞士ニアリ勿論何レモ秘密屏息ノ身ナルヲ以テ其首
領ヲ求ムルニハ亦多少ノ困難アリシ併シ知矢、米里、出叶及佛國ノ
無政府黨員「キーヤール」等ノ連系ニ因テ其住所ヲ知ルコトヲ得タ
リ
瑞士ニ七月下旬知矢ト相前後シテ入りシ該地ニハ「ドロシヤク」黨
ノ首領丸美露國民權社會黨ノ首領布禮、革命黨ノ首領老女武烈、思
殊等竝ニ「ブント」黨ノ首領某モアリキ此等ノ徒ハ多クハ白山ノ雪
ニ對シ大湖ノ水ニ臨ミ多クハ文墨ヲ弄スルモノニシテ「ジュネー

ノ片田舎ナル舊薇の里ハ是等不平隱士ノ居最モ多シ
不平黨統一聯合ヲ圖ルニ大困難トセシ所ハ諸黨派ノ軋轢嫉妬ヲ除ク
ニアリ假令ハ革命黨ノ民權社會黨ニ於ケルハ競争者タリ波蘭土國民
黨ノ其社會黨ニ於ケル反目ハ其主義上免カルル能ハス純露人ト波蘭
人ハ歴代ノ怨恨深キコト他ノ征服人種ノ比ニアラス是ニ於テ其同一
主義ニ組織セラレアル黨派ニ於テモ常ニ互ニ猜疑ノ念ヲ絶タサルコ
ト是レナリ此間ニ立チ幹旋セシハ知矢ナリシ是レ芬人ナルヲ以テ主
義及地域競争ノ渦外ニアリテ古ノ虛無黨ニ親友頗ル多ク從テ今ノ革
命社會黨及民權社會黨ハ相通シテ親善ナルノミナラス芬蘭土憲法黨
露ノ自由黨ニモ多少ノ知己ヲ有スルヲ以テ各黨ノ媒介ニ幹旋スルニ
ハ最モ適當ナリシ然レトモ明治三十七年ノ夏ニ於テハ「アルメニヤ」
「ブント」民權社會黨ハ未タ確定ノ回答ヲナスヲ得ス於是知矢ハ時
局ニ對シ不平黨合同相談會ヲ三十七年十月ヲ期シ開クヘキヲ以テ唯
各黨ニ若干ノ委員ヲ出席セラレタキ旨ヲ告ケ其相談會ノ項目トシテ

ハ各黨各派ハ各其露國政府ニ向ヒ要求スヘキ事柄ヲ提出シ成シ得レ
ハ一連ノ檄文ヲ草シ又之ニ次テ示威運動ヲ行フコトヲ勸誘スルヲ力
メタリ

下官ハ七月ノ末知矢ニ別レ瑞士國「チウリッヒ」附近ナル「ラベ
ルビール」ニ赴キ波蘭土國民派首領「パリスキー」ニ會シ其意見ヲ
求メタルモ彼モ亦斯ル會合ノ好結果ヲ得ヘキヤ否ヲ疑フモ黨員ニ諮
リ成ルヘク會議ニ出席ヲ勉ムヘシト答ヘリ下官ハ夫ヨリ伯林ニ入リ
「アムステルダム」ニ於ケル列國社會黨會議ノ終ルヲ俟チ獨逸漢堡
市ニ赴キ八月ノ末知矢ト該地ニ會合セリ知矢ハ波蘭土社會黨首領沃
土^ド^コヲ倫敦ヨリ招キ之ニ瑞士ニ於ケル各黨ノ狀況ヲ語り十月ニ於ケ
ル會議ニ出席ヲ求メ八月末「ストックホルム」ニ還リタルニ同日宇
都宮大佐ノ電報ニ接ス曰ク來ラルルナラ早く來レト
於是下官ハ倫敦ニ向ヒ出發セリ之ヲ第三回ノ南歐旅行トナス宇都宮
大佐ハ在英沃土庚外數名ノ倫敦支部波蘭土社會黨員ヲ招集シ會合中
波蘭土社會黨ハ十月巴里會議ハ到底其結果ナカルヘキニ付初メヨリ
出席セサルニ如カストノ意見ヲ抱クモノ多ク即チ沃土庚カ前陳漢堡
市會合ニ於テ知矢及下官ニ對スル回答トハ全ク其根底ノ動キシカヲ

ヲ瑞士ニ主張スルト相衝突セル所ナリキ此ノ如キ争ハ實際其黨員ノ勢力及便否ノ上ヨリハ多少關係アル問題ナルモ些事ヲ主張シ共同ヲ缺クハ露人ノ通弊ナリ此問題ニ付キテモ妥協行ハレサリシ民權社會黨首領「ブレハノフ」ハ回答シテ曰ク巴里ニハ第一自分ハ追放令ノ爲メ入ルヲ得ス第二民權社會黨ハ社會黨ノ原則ヲ守ルカ故ニ社會黨ノ原理ニ基カサル會合ニハ臨ムヲ得サルヲ遺憾トスト蓋シ第二ノ條ハ其競争者タル革命黨ノ勢力ニ對スル嫉妬ノ言ニシテ革命黨ノ名稱社會黨ナルニモ拘ハラズ其實無政府主義ニシテ無政府主義ハ嘗テ社會黨連合會ニ於テモ謝絶セラレシコトアリ此ノ如クシテ民權社會黨及「ブンド」黨ヲ除ク外ハ即チ自由黨、革命黨、菲蘭憲法黨、波蘭土國民黨、波蘭土社會黨、「ドロシヤク」黨、「サカルトヴェロ」黨ハ悉ク十月一日巴里ニ集マレリ此會議ハ五日間繼續シ知矢ハ原案者タル故ヲ以テ推サレテ議長トナレリ此會ニ於テ尤モ列席者ヲ驚カシタルハ自由黨ノ意見意外ニモ鋭ク總投票權ヲ人民ニ有セシムルニ

見タリ該黨員ハ曰ク「ブンド」黨員中（露ノ猶太社會黨）ニハ菲ノ首領知矢ハ大佐Aノ囑托ヲ受ケ奔走スト語ルモノアリ吾人ハ如此會合ノ成立ヲ疑ヒ出席ニ逡巡スト因テ下官ハ宇都宮大佐列席ノ上左ノ如ク語レリ連合運動ノ發起者ハ知矢ナリ自分ハ唯其運動ヲ必要ナラ補助セント思フノミ若シ此不平黨運動不承知ナラ致方ナシ予ハ強チ之ヲ貴黨ニ求メス又自分ハ寧ロ之ニ關係セサルヲ望ム離合ハ隨意ナルコソヨカルヘシト首領沃士庚曰ク黨員ノ議論ハ區々ナレトモ自分ハ一致セシメ會議出席ノ手段ヲ取ルヘシト一方ニ於テ他ノ諸黨ヨリハ九月中旬ニ至リ概ネ出席ノ旨報シ來レリ是ヨリ先キ知矢ト下官ト意見ヲ異ニセシ點ハ露ノ自由黨ニ通信スルヤ否ナリシ下官ハ常ニ自由黨力硬軟懸隔ノ異分子ヲ含ミ居ルヲ以テ之ヲ通知スルハ却テ危險ヲ増加スルヲ恐レタリ強情ナル知矢ハ其危險ナキヲ固執シ終ニ會合ヲ求メシカ即チ其硬派ハ之ニ應スルコトナレルモ條件ヲ付セリ曰ク會議ノ地點ハ必ス巴里ナラサルヘカラスト是露民權社會黨力競場

ハ此會議ノ決議ニ服セサリキ其眞底ヲ叩ケハ彼レハ猶露國政府ノ威
力ハ使ナルモノトナシ徒ラニ暴力ヲ用フレハ却テ菲蘭土ヲ危クスル
ヲ以テ兵器ノ充實即チ五万挺ノ小銃ヲ菲蘭土ニ有スルニ至ルマテハ
何事モセサルニアリ此件ハ叛ト題スル封包中ニアル其提議書ニ因テ
モ見ルヲ得ヘシ（此提議ハマダルキ策ナルヲ以テ啞リ潰シトナセリ
是ニ於テ知矢ハ別ニ一黨ヲ組織シ菲蘭土急激反抗黨ト名ケ此黨派ハ
前ニモ述フル如ク露國革命黨ト全ク其進退行動ヲ同盟セリ此會議ノ
第二次會ニ於テハ自由黨ヲ除キ非常手段ヲ用フル黨派ノミ會合シ非
常手段ノ打合セ示威運動方法ノ協議就中露國各地ニ於ケル軍隊動員
ノ妨害ヲ決議セリ斯クノ如クシテ諸黨ハ十月中旬悉ク巴里ヲ去リ下
官ハ資力少キ黨派ニハ補助ヲ約シ再ヒ「ストックホルム」ニ歸レリ
間モナク波蘭土社會黨ハ眞先ニ運動ヲ開始シ同盟罷工ヲナシ鎮壓ノ
憲兵兵隊ト鬭爭シ其勢甚タ猖獗ナリシハ當時諸新聞ヲ緋ケハ如何
ニ同黨力熱心ニ反抗シタルカヲ知ラン

至ルコト種々ノ反抗手段ヲ取り以テ露國政府ノ威勢ヲ挫キ以テ各黨
ノ目的ヲ達スルノ階梯ニ進ムコト等ヲ主張セリ又其代表者トシテハ
露國隨一ノ名家彼ノ前帝室ノ苗裔タル公爵「ドルゴルキー」ヲ始
メ大博士「ミルコーフ」名士「ストルーベ」等ヲ出セリ此會議ノ決
議トシテハ當時小官ヨリ參謀本部ヘ又本野佛國公使ヨリ外務省ヘ電
報セシ通リニシテ當時各黨ノ間ニ多少意見ノ相違アリシモ大体ニ於
テ首尾好ク完結セルハ知矢力苦心慘憺ノ勞ヲ謝セサルヲ得サルナリ
此會議ニ於テ示威運動ノ方法ハ各自固有得意ノ手段ヲ用フヘキコト
トナレリ即チ自由黨ノ如キ州郡會ヲ煽動シ所謂言論ヲ以テ政府ヲ攻
撃シ革命黨及其他ノ諸黨ニ至テハ其得意ノ非常手段ヲモ用フルコト
トナレリ於此高架斯地方ノ如ク暗殺ニ熟練セルモノハ暗殺、波蘭土
社會黨ノ如ク示威運動ニ經驗アルモノハ之ヲ用フルコト是レナリ獨
リ菲蘭土黨ニ於テハ議長ダリ幹事タルノ知矢力其首領ノ一人タルニ
拘ハラシ議論ニ派ニ別レタリ即チ舊元老議員「メツケリン」ノ一派

之ト同時ニ知矢ハ巴里其他ニ於テ有力者ヲ説キ露國攻撃示威運動後援ノ爲メ斡旋セリ此件ハ下官之ヲ提議シ參謀本部ヨリ當時御注意ノ電訓ヲ受ケシコトアリシモ事實上下官ハ毫モ之ニ關係ナク知矢自ラ其局ニ中レリ即チ佛國ノ衆議院副議長トシテ社會黨ノ首領トシテ威勢佛國ノ内閣ヲ左右スル「ジョーレス」ノ如キ亦之カ援助ヲ諾セリ其他大博士「アナトール・フランス」貴族院議員「ブレサンセー」「クレマンソー」ノ如キ政事界ノ老練續々贊同シ露人ノ友（即チ露政府ノ敵）ト名クル一團體ヲ組織シ其機關新聞「ユマニテー」「ジブルラー」「ヲーロール」「ウーロベアン」「アルメニアン」「ジョールジャン」等筆ヲ揃ヘ露政府ヲ攻撃セリ

此間ニ於テ露ノ革命黨ハ「キエフ」「ラデッサ」「モスコ」等ニ示威運動ヲ試ミ又大學生ヲ煽動シ自由黨ハ州郡會ノ議員、代言人會醫師會等ヲ催シ熾ニ政府攻撃ヲナシ言論の示威運動ヲ試ミ高加索ハ日々官吏ノ暗殺十ヲ以テ數フルニ至レリ此等ノ事ハ當時各國新聞ニ日々詳ク記載シアル所ナルヲ以テ詳細ニ涉ラス

此クノ如クニシテ十一月ヨリ一月ニ亘リ間斷ナキ紛擾中ニ於テ民權社會黨ハ巴里會議ニ加ハラサリシニモ拘ハラヌ草獨ノ動作ヲ取リ別働隊トシテ職工ノ示威運動ニ勉メタリ

一月涅波祭ニ於ケル砲撃ハ露國皇帝ノ心膽ヲ寒フシ二十二日ノ變ハ僧「ガボン」ヲシテ名ヲ成サシメタリ「ガボン」ハ當時職工ノ布教師トシテ革命志操ヲ有セシ迄ニテ革命黨ニモアラス民權社會黨ニモアラス其中間ニ在テ兩黨ニ親交ヲ有シタリシカ兩黨ノ煽動漸ク進ムニ方リ瓦本ハ兩黨ノ共ニ關係アル職工間ニ立チ血ヲ流ササル請願的手段ヲ取リ職工ヲ率キテ各宮ニ迫ルニ至レリ此事ハ名高キ事件トナリ居ルカ實ハ）兩黨反抗競争ノ勢ヨリ瓦本ハ自然ニ推シ出サレタルモノニシテ正直ニ云ハハ誰レモ前以テ斯クナルヘシト熟計ヲ凝セシモノニアラス而シテ唯職工ニ人望アルト云フニ止マリ一教父ガボンカ兩黨職工數万ヲ統率シ滿都ヲ震撼スルニ至リシハ希望以上ノ出來事ナリシ瓦本ノ激動ハ一敗地ニ塗レシト雖トモ露國政府ノ威信ハ

全歐洲ニ失墜シタリ而シテ其同盟國タル佛國ニ於テモ彼ノ「露人ノ友」ノ一團體ハ熾ニ之カ後援ヲナセリ今其一例ヲ舉ケンニ佛國大學ノ教授ニシテ有名ナル大博士「セイニヨール」ハ學生ニ説ケリ曰ク卿等ハ如何ナルコトアルモ露國ノ募債ニ應スヘカラス又卿等ハ其父兄ニ向ヒ予カ説カ傳播スヘシ是獨リ卿等ノ家産破滅ヲ恐ルルノミニアラス佛國ノ經濟紊亂ヲ憂フレハナリ又瓦本(驗)動ヲ目撃セシ某外國通信員ハ報シテ曰ク職工カ赤手ニシテ兵火ニ斃ルルヤ叫ンテ言ヘリ曰ク若シ日本軍ノ僅カ一大隊カ吾人ノ側ニアリシナランニハ吾人ハ茲ニ慘死セサルヘキニト蓋露政府ヲ不平黨ノ怨ミシ事ハ又他ノ例ニ因テモ知ラル即チ彼ノ老女傑「ブレシユコブスカヤ」一日人ニ語テ曰ク)吾人ハ人民ノ爲メ惡魔ト義戰スル茲ニ數十年未タ目的ヲ達セス今ヤ吾人カ敵國タル日本ハ却テ吾人ヲシテ惡魔ヲ退治セシムルノ機ヲ與フ吾人豈我微力ヲ赤面セサルヲ得ンヤト實ニ彼等ノ胸中ニ唯一ノ敵ハ露國政府及皇帝アルノミナリキ

瓦本驗動ノ後猶示威運動ハ各地ニ繼續セリ即チ當時動員ノ區域タリシ東中西部)露西亞波蘭土及高架斯ハ力ヲ極メテ動員ヲ妨害セリ殊ニ「ゲラルギー」ノ如キハ動員妨害鎮壓ノ爲メ來リシ歩兵若干中隊ヲ包圍シ高架斯第一軍團ノ動員ハ全ク撤回セラレタリ又波蘭土ニ於テハ其常設軍團ハ之ヲ他ニ動カスヲ得サルノ境遇ニ至レリ此間菲蘭土ニテハ幾干ノ地方官ヲ暗殺セリ下官ハ瓦本ノ騷亂中「ストツクホルム」ヲ去リ南行セリ之ヲ第四回トス是レ巴里其他ニ於テ爾後ノ變態ニ注意スルニ在リシ此第四回ノ南行中皇族暗殺ノ企テヲ知ル一吉羅ノ「ジェラチース」爆藥ハ數週後帝室第一ノ硬派「セルギー」親王ヲ斃セリ知矢モ亦巴里ニ來レリ其革命黨ノ「ワンホヴスキ」等ト會合セシハ既ニ瓦本一敗ノ後ナリシカ爾後ノ運動ニ付テハ茶猪子ト協議スルノ必要ヲ生セリ是レ彼ハ此道ノ宿老ナレハナリ此相談ノ結果當時有名トナリシ瓦本ノ名ヲ以テ各黨ヲ召集シ夏季ヲ以テ一層

激烈ナル運動開始ノ相談ヲナスニアリシ此會議ハ三十八年四月下旬ヲ以テ)瑞士國「ジュネーブ」「シモン」ナルモノノ家ニ開クコトトナレリ此會ニ列セシハ革命黨、波蘭土社會黨、芬蘭土過激反抗黨「ドロシヤク」黨、「サカルトヴェル」黨(以上二黨高架斯「アルメニヤ」及「ゲラルギー」)白露黨、「レツトン」黨是等非常手段ヲ用フル諸黨派ナリシ民權社會黨及「ブンド」黨モ來會セシモ復タ協同スルニ至ラスシテ去レリ其理由ハ「レツトン」黨(即チ「バルチック」沿岸州)ノ如キハ其黨派小ナルヲ以テ之ト同様ノ決議權ヲ以テ協同スル能ハスト云フニ在リシ何ソ知ラン「レツトン」黨ハ其力頗ル大ナリシコトハ其後今日マテノ運動ニ因テ各新聞紙上ニモ見ル所ナリ此會議ニ於テハ飽ク迄モ反抗ヲ繼續シ夏季ヲ以テ暴舉ヲ圖ルニ在リシハ實ハ茶猪子、知矢ノ意見根底トナレルモノニシテ此決議書ハ在伯林ノ上田傳太郎ニ渡シ同人今尙ホ保管セリト考フ此決議ノ要領ハ波蘭土芬蘭土等ハ露國版圖内ニテ獨立シテ露ト聯邦ヲ形作

ルヲ目的トシ露ノ革命黨ハ現政府ヲ打破シ完全ナル自治制度ヲ露國ニ布クヲ目的トシ露國諸國カ聯邦制トナルニ同意シ白露、列昂等ハ完全ナル自治ヲ得ルヲ目的トサルカ後ニ至リ其目的ハ一層進ンテ獨立政府ヲ設クルヲ企圖スルニ至レリ自由黨ハ此會議ニ與カラザリシモ後ニ至リ公爵^{シモ}車^{シモ}公爵^{シモ}杜^{シモ}等ハ之ニ賛同セリ此決議ハ「レボルチヤラシヤ」ト云ヘル新聞ニ因テ宣言セリ

此會ハ好結果ヲ以テ終リシト雖モ別ニ革命黨ノ一計ハ全ク挫折スルニ至レリ是レ暗殺ノ目的(人ハ云ハス隨テ知ルニ由ナキモ皇帝ナリシナランカト推想シ居ル)ヲ以テ宮廷ニ配置セントセシ妙齡ノ婦人「レナンチバー」捕ヘラレ其家宅搜索ノ結果多クノ革命黨員提捕セラルルニ至レリ

是ニ於テ下官カ四月末「ストツクホルム」ヲ發シ巴里ニ赴キシトキハ形勢一變シ大ニ落膽セシモ請求ノ金モ既ニ判着シ居ルヲ以テ先ツ其分配ヲ定メ氣勢回復ヲ勉メントセリ是ヨリ先キ第四回旅行中埃國

ナリト稱シ四方圓ヲ以テ該地ニ赴キシカ終ニ六月ニ於ケル「ラデツ
 サ」騒亂ヲ惹起スルニ至レリ此騒亂後莫斯科ニ道レタリ「デカンス
 キー」ノ門下ニシテ小露人タル「ラメルチュユーグ」及「フエルドマ
 シ」軍艦「パテムキン」ニ在テ煽動シ黒海ノ變ヲ惹起シ「ラメルチ
 ユーグ」ハ殺サレ「フエルドマン」ハ捕ヘラル後牢ヲ破リ遁逃セシ
 ハ平和克復頃ナリシカ再ヒ露領ニ入ラントシテ波蘭土ニ於テ再ヒ捕
 ヘラレタリト聞ケリ此騒亂モ亦未熟ニ發シ官憲ノ先ニスル所トナリ
 十分ニ効ヲ奏スル能ハサリシモ露政府ノ威嚴ハ慥カニ地ニ落チ露皇
 帝ヲシテ其重人ノ頼ムニ足ラサルヲ知ラシメタリ是ヨリ先キ革命黨
 ノ提捕アリテ不平黨ノ氣勢一時挫クルヤ之ヲ回復スルカ爲メ一方ニ
 於テハ一般ノ志氣振作ノ方法ヲ更ニ講スルヲ要スルニ至レリ之カ爲
 ニハ革命黨首領中殊ニ激烈ナル茶猪子ヲ主トシ知矢、瓦本、「ソー
 スキース」等其首腦トナリ奔走セリ而シテ露國革命黨ヲ中心トシ其
 他ノ諸黨ハ之ニ從テ運動ヲ開始スヘキ筈トナレリ之カ爲メ兵器

維納府ニ下官ヲ待チシ波蘭土「イントランシーヂアン」黨ノ首領「
 スッデニツキー」ハ瑞士ニ數万挺ノ廉價ナル小銃アルヲ告ケシヲ以
 テ第五回ノ巴里行ニ於テ此銃器ノ購買法ニ就テ二三ノモノト協議セ
 リ當時「アルメニヤ」ハ「サンシヤモン」ニテ佛國ノ古式銃購買中
 ナリシカ瑞士ノ「ヴェテルソー」銃購買ノ事ヲ高架斯「ゲヨルギー」
 黨ノ「デカノージ」ニ語り其購買法研究ヲ求メタリ「デカノージ」
 「ハ其同郷ノ老友ニシテ無政府黨タル知名ノ哲學者「チエルチツ
 ソー」ヲ介シ終ニ瑞士ノ無政府黨員タル金滿家「ボー」ハ其同窓
 ノ友人タル砲兵工廠提理タル大佐某ニ由テ賣買ノ條約ヲ結フニ至レ
 リ
 此間各黨ハ自カラ兵器ノ購賣ニ從事セリ殊ニ民權社會黨及「ブンド」
 ノ如キ同盟ニ加ハラサル別働派モ亦拳銃ノ購買ニ奔走セリ
 此ノ時ニ方リ革命黨ノ一首領ニシテ尤モ勢力アル「デカンスキー」
 ハ「ラデツサ」ニ於ケル遊説及該地ニ兵器陸揚ノ方法ヲ求メン爲メ

ノ購買ニ從事セリ兵器購買ハ波蘭土ハ金錢ヲ給與シ自由ニ購買セシ
メ其他ノ黨派ハ兵器ノ賣物ヲ見付ケ次第ニ金錢ヲ支出スルコトナ
レリ
兵器ノ購買ハ困難ナル事業ナリ殊ニ黨派ニ由テ其嗜好ヲ同フセス假
令ハ革命黨波蘭土社會黨ノ如ク其黨員職工ヲ主トスルモノニ於テハ
小銃ヲ好マス又芬蘭土及高架斯等ハ寧ロ小銃ヲ好ムハ其黨員ニ農民
多ク含有セラルレハナリ
五月頃獨國漢堡府ニテ知矢ハ祭銃及「マウセル」騎兵銃ノ購買ニ著
手セリ一方ニ於テ瑞士ニ於ケル「ヴェテルリ」銃ハ「デカノ」ジ
ー「チエケソーフ」及瑞士ノ無政府黨「ボー」ニ由テ購買ニ著手
セリ
又茶猪子僧瓦本竝ニ「ソースキース」ノ徒ハ露國內部ノ不平黨ノ勢
力挽回ニ力メタリ
是ヨリ先キ「セスネー」「セシール」兩小蒸汽船ヲ購入セリ其目的

ハ專ラ巴的海沿岸ニ兵器ヲ陸揚スルカ爲ニシテ購買ハ彼レ等ノ手ニ
テ行ハレ米國婦人「ハル」其持主トナリ其船員ハ彼ノ芬蘭總督殺害
者ノ弟タル「シヨーマン」以下專ラ菲蘭土及「リチユアニー」「ソ
ボニー」即チ巴的海沿岸ノ不平黨員ナリシ

瑞士ニテ契約セル銃器ハ巴爾的方面ノ爲メニ小銃一萬六千銃約三百萬（出納説明ニアリ）黒海方面ニ送ルヘキモノ小銃約八千五百及單百二十萬發ナリシ

然ルニ之ヲ輸送スルニハ迎モ陸揚小蒸汽船ノ堪フル所ニアラス因テ別ニ約七百噸ノ運送船ヲ購入スルヲ要シタリ此船名ハ後ニ各國新聞紙上ニテ有名トナレル彼ノ「ジョンクラフトン」號ナリ然ルニ兵器ヲ瑞士ヨリ出シ陸路鐵道ニテ運搬スルニモ貨車八輛ヲ要シ中々困難ノ事業ナルノミナラス六七百噸ノ運送船ヲ購入スルノ手續之ヲ出帆セシムルノ手段ニ至テハ實ニ言フヘカラサルノ困難アリキ

是ニ於テ申請セシ如ク高田商會ヲ其中繼トシ諸般ノ世話ヲ委託スルニ至レリ高田商會ハ支店長柳谷己之吉英人「スコット」ヲシテ左ノ如ク案ヲ立テシメタリ

即チ其代理店タル「ロツテルダム」ノ某商店ニ命シ瑞士ヨリ「ボー」力運送スル右ノ兵器ヲ取繼キ英國ニ送り高田商會ノ取引先キナル「ワ

ット」ヲシテ「マニラ」ヘ輸送スルト稱セシメ兵器ヲ英佛海峽ニ出シ大船ヨリ之ヲ「ジョンクラフトン」號ニ沖合ニテ轉載シ之ヲ北行巴爾的克海ニ至ラシメ總テノ手續キノ困難ト法律上ノ故障トヲ絶チ兵器ノ出所ヲ暗マサントスルニアリシ又一方ニ於テハ「ジョンクラフトン」號ノ購求ニ非常ノ困難アリシ

又瑞士ニ於テハ「ボー」ハ其親友ナル砲兵工廠提理ニ對シ購買ニ著手セシハ六月中旬頃ナリシカト考フ而シテ其梱包ノ爲メ要スル銃箱ヲ作り銃ヲ清淨スル等は亦中々容易ノ事ニアラサリシ斯クノ如クシテ七月中旬ニ至リ準備完成シ瑞士國「バール」ヨリ和蘭國「ロツテルダム」ヘ「コルドネル」商會宛ニテ運送セシカ其英國ヘノ輸出ハ税關ノ検査ニ因リ一時停止セラレ高田及「ワット」ハ之カ爲メ非常ノ盡力ノ後終ニ英國迄取寄スルコトヲ得タリ是ヨリ先キ下官ハ運動準備ノ爲メ英國ニ在リ一時「チアーリリングクロス」旅店ニ滞在セシ

カ何分不平黨ヲ煽動スルニハ毎日數回ノ密會ヲ要スルヲ以テ此事件ノ幹事ト下官トハ右ノ大旅店ノ東西兩隅ニ分レテ止宿シ以テ相互出入ノ頻繁ナル爲メ人目ヲ惹クヲ避ケタリ然ルニ事愈々複雑シ來リ不平黨ノ往復愈々頻繁トナルニ及ヒ僧瓦本モ亦偽名ヲ以テ該旅店ニ投セリ下官ハ僧力來リタルノ翌日一切ノ事ヲ知矢ニ任セ他ノ旅店ニ移リ全ク潛匿セリ此寓居ハ「クレーベン」街ノ「クレーベン」ト名クル一小旅店ニシテ唯此住所ハ宇都宮大佐ノ外日本人ト雖モ一人ノ知ルモノナカリシ然ルニ數日ヲ經一ノ封書此旅店宛ニテ明石大佐殿ト題シタルモノ到著セリ（此書ハ叛義中ニ其原紙ヲ保存シアリ）曰ク次ノ木曜日午前十一時佛國巴里「シャンゼリゼー」街地下鐵道ノ入口ニ足下ハ安ヲ待タレヨ足下ハ安ヲ知ラサルヘキモ（安ハ足下ヲ知ル故ニ足下ヲ見出スニ苦マス要ハ足下ニ告ケタキ事件アレハナリ然レトモ足下ハ恐怖スルコト勿レ安ノ談話ハ足下ノ爲メ甚タ必要ナリ）「ローラン」夫人（古ノ「ローラン」夫人ノ名ハ佛國革命史上ノ焰火

ナリ）ヨリトアリ當時下官ハ巴里ニテ黑海方面兵器輸送ノ相談ヲトスノ用アリシヲ以テ巴里行ニ決心セリ勿論甚々薄氣味惡キ事經テモ下官力潛匿ノ旅店ヲ搜シ得タルハ慥カニ不思議ノコトナリ斯ノ如キ人物ハ善惡ハ兎モ角次第ニヨレハ我用ヲナスヘキ人物ナリト考ヘ豫定ノ日豫定ノ時刻ニ會合場ニ至リ待チ居タリ此時前方ヨリ來リシ四十餘ノ婦人ハ下官ニ近ツキ下官ノ指定セル旅館ニ來リ左ノ如ク語

妾ハ露探ノ妻ニシテ佛人ナリ余ハ良人ト争ヒ別居シ居ルカ若シ四百
 磅ヲ賜ハラハ露探ノ祕密ヲ告ケント下官ハ曰ク予ハ報告ヲ得ルニ價
 ヲ吝マス唯十分ニ告ケント欲スル所ヲ告ケヨト彼曰ク足下ハ危険ナ
 ル人物トシテ露ノ注意嚴ナルヲ知ラズヤ足下ノ行ク先露探ハ足下
 ヲ目ヨリ離サス露探長「マロニロフ」ハ然レ今朝八時ニモ足下カ凱
 旋門下ヲ散歩セルヲ見明石來レリト云ヘリ足下ハ露國ノ尤モ嫉妬ス
 ル露國ノ虛無黨ノ首領「シリヤクス」及「デカノーゼー」ト共謀セ
 リ足下等ハ漢堡ニテ兵器ヲ「フランク」ナルモノヨリ一部購買シ一
 部ハ失敗ニ終リタル筈ナリ某月某日足下ハ夜汽車ニテ伯林ヨリ漢堡
 ニ來リ知矢ノ投宿セル「ストロイツ」旅店ノ階段ヲ上ルトキ遭遇セ
 シ人アルヲ記憶セスヤ彼ハ露探「スプリングル」ニシテ足下カ知矢
 ト會見ノ爲メ來ルヲ俟チシナリ足下カ去リタル後知矢ハ勿惶行李ヲ
 收メテ去レリ思フニ足下ハ知矢ヲ遣ス爲メ來リシナラン足下カ「ジ
 ヨールジュ」ト云ヘル名ヲ以テ「デカノージー」ニ何日ニ與ヘシ書

S 12.2.1.0-1

419

ハ開封セラレ露探ノ手ニ落チタルヲ知ラスヤ望ミナラハ文句ヲ述ヘ
 證明セン足下等ハ兵器ノ購買ニ奔走セルヲ知ル併シ其場所ハ漢堡ナ
 ルヤ否今探偵中ナリ徒歩ハ尾行スルニ容易ナリ請フ徒歩スル勿レ本
 名ハ搜索ニ便ナリ旅店ニハ偽名ヲ用ビヨ小旅客ハ却テ注意行届ク故
 請フ大旅店ニ投宿セヨ余ハ今後猶時足下ニ注意スルコトアラン云
 々一々事實ニ中ル然レトモ下官ハ其反問ヲ愁ルルカ故ニ云ヘリ曰ク
 予ハ露國內ノ探偵タルヘキモノヲ得ルコトヲハ熱心ニ搜索中ナリ足
 下適當ノ候補者アレハ之ヲ紹介セヨ虛無黨カ何ヲスルヤハ予ニ大關
 係ナシ乞フ露軍情況ヲ告ケヨ彼曰ク足下ニシテ虛無黨ヲ知ラスハ何
 人カ之ヲ知ルモノアラン乞フ予ヲ信セヨ足下カ露國內政ノ運動ハ予
 ノ力ヲ假ラスンハ出來ス併シ云フナト云ハハ止メン唯武器購買ハ露
 探大ニ注意スルヲ忘ルヘカラス又特ニ足下ニ告ケタキハ日本ノ暗號
 ハ露人ニ因テ知ラレ唐ル（此件ハ後明瞭トナレリ併シ大祕密此事ハ
 諒訪秀三郎ニ委任シタルカ後此事柄ノ全部ヲ本野公使ニ移セリ）

S 12.2.1.0-1

420

此ノ如ク一方ニ於テ兵器輸入ニ付露探ノ著目ハ漸次其嚴ヲ加フルヲ知リタルヲ以テ其購買及運送ニ一層ノ注意ヲ要セリ
「ジョンクラフトン」號ノ購買ハ高田其取引先ナル「ウァット」ヲシテ其局ニ當ラシメ「ワット」ハ仲買人トナリ之ヲ「デキンソン」
（一ニ「デンバー」ト稱ス）ト稱スル倫敦ノ酒屋ニ賣渡セリ「デキンソン」ハ露國革命黨ノ銀司ニシテ茶猪子ノ選定セルモノナリ然レトモ其本業ノ關係アルヲ以テ唯其持主タルノ資格ヲ保チ表面上之ヲ米國ノ無政府黨員「モルトン」ニ貸渡シノ姿ニナセリ元來其船籍ヲ何レノ國ニ置クカハ一問題ナリシ是レ巴爾的海ニ入ルニハ丁秣、瑞典、諸威、或ハ英國船ナラスンハ人目ヲ惹ク然ルニ瑞典諸威當時分離問題ノ爲メ干戈ヲ見ントスルノ時ナリシヲ以テ亦安全ナラス且適當ノ持主ヲ突嗟ノ間ニ見出ス能ハス茶猪子ノ薦ニ因リ右ノ「デキンソン」ヲ持主トシ英國々旗ヲ懸スコトナレリ然ルニ船ヲ英國ノ一港ヨリ出スニハ其行先ヲ届ケ其證明書ヲ貰ハサルヘカラス且其船長

以下國籍姓名ヲ告ケサルヘカラス然ルニ船長「トロイトマン」運轉手「パウマン」以下乗組員皆露國人ナルカ故ニ其船長免狀及出船届ケ方ニ於テ大ニ困難セリ
是ニ於テ船ハ舊船員ヲ搭載シテ和蘭船「フレッシング」ニ向フコトトナシ此地ニテ讓受ケノ契約ヲナシテ英國法律ノ制裁ヲ脱シ船長以下該地ニ赴キ舊船員ノ船ヲ捨テ上陸シタル後之ニ乗リ移レリ是ヨリ先キ船受取人トシテ兼テ高田ノ關係アル一船長ハ「ジョンクラフトン」號ニ乗リ組ミ居タリシカ「フレッシング」ニ於テ露國船員ノ乗組ミ終ルヤ直チニ同港ヲ拔錨セリ此拔錨ニ際シテモ其船ノ行先届ニ付故障生セシモ辛フシテ之ヲ切り抜ケタリ
此クノ如クシテ「ジョンクラフトン」號ハ七月末英佛海峽ヲ南航シ高田關係ノ「ウァット」持船ト海峽ノ一孤島「ゲンゼー」沖ニ於テ武器約一万六千彈丸約三百万拳銃約三千挺爆烈藥三噸ヲ轉載セリ時ニ風波高ク轉載ハ晝夜之ヲ行ヒ約三日間ニテ終了シ「ジョンクラフトン」

之ニ與ヘタル訓令ハ八月十四日夜ヲ以テ丁馬克海峽「ワルネムンド」ヲ通過シ八月十八日「ヴィンダウ（即チ露國西岸）」ニ「レットン」（「バルチック」沿岸ノ民）用ノ兵器及「モスコ」行ノ分ヲ陸揚シ八月十九日夜ニハ「ヴィボルグ」ノ南方一小島ニ至リ迎ヘ船ヲ待チ合セ小舟ニ移シ露都附近ニ揚陸スルニアリシ是ヨリ稍ヤ前ニ小蒸汽船「セシル」ハ該地ニ向ケ倫敦ヲ出帆セリ
此ノ如キ計畫ハ高田ノ柳谷支店長英人「スコット」ト共ニ苦心之ヲ實行シ八月一日船ハ出港セリ而シテ下官等ハ各々道ヲ異ニシ知矢ハ丁秣克ニ向ヒ出發シ更ニ在瑞士ノ八千五百挺ヲ輸送スルノ計畫ヲナセリ是レ此ノ八千五百挺ハ初メ黑海引宛ノ處ナリシカ該方面ノ輸送方ニ故障ヲ生シタルヲ以テ寧ロ巴的海方面ニ振り向ケンカ爲メナリキ是ヨリ先五六月ノ交高架斯ニ於テハ國立銀行ヲ襲撃シ三萬圓ヲ奪ヒ波蘭土社會黨モ波蘭土ニテ三萬圓ヲ國立銀行ヨリ奪フ而シテ八月中旬ニ於テ「レットン」ハ同一ノ方法ニ因テ二萬七千圓ヲ奪ヘリ下

トシ」號ハ露國革命黨ノ船員ノミニテ北航セリ

官ハ八月初旬倫敦ヲ發シ巴里ニ於テ高架斯ノ諸島ニ會シ巴爾の方面
 破裂セハ之ニ從ヒ直チニ運動ヲ開始スヘキヲ協議シ去テ伯林ニ入り
 シハ已ニ米國ニ於ケル諍和談判ノ最中ナリシ而シテ波蘭土社會黨首
 領沃士庚ヲ伯林ニ招致シ同一ノ意ヲ協議セシハ八月十八日カ十九日
 ナリシト思フ又「クルランド」ニ於テハ「レットン」黨ハ既ニ動搖
 ヲ初メタルヲ獨逸新聞ニテ知レリ下官ハ八月二十日「ストツクホル
 ム」ニ歸レリ此時長尾中佐ハ左ノ如ク下官ニ語レリ曰ク八月初旬「
 フルヘルム」芬蘭土ヨリ來ル曰ク形勢ハ頗ル宜シ併シ「クールラン
 ド」ノ運動早キニ失ス「ヴィボル」南方著船地ニ監視哨アルヲ發見
 シタリ故ニ丁秣ニ向ヒ著船點ヲ芬蘭土ト瑞典トノ間ナル海ニ變換ス
 ル様通知シ置ケリ云々此上陸點ノ變換カ正シク「ジョングラフトン」
 號ニ達セシヤ否ハ痛心ニ堪ヘサリキ
 八月二十五六日頃ト思フ知矢英人「ロング」ト云ヘル旅券ヲ有シ「ス
 トツクホルム」ニ來ル曰ク「ジョングラフトン」ノ事眞ニ閉口シタ
 6 12.2.1.0-1 425

リ「ジョングラフトン」ハ方ニ十八日ニ於テ「ヴィンダウ」ノ北角
 ニテ巴の沿岸不平無ノ兵艦ヲ卸スヲ得タルモ十九日ニ至リ「ヴィボ
 ルグ」ニ達シ迎船來ラス疑懼ノ餘リ錨ヲ拔テ丁秣克ニ來リ余ニ命令
 ヲ乞フトノコトナル故昨日變換ノ上陸點ニ出帆セシメタリ即チ露瑞
 兩國ノ境界「ケミー、トルネヲ」地方ヨリ兵器ヲ卸シツツ南下スル
 豫定トナセリ此件ハ「ヴィボルグ」監視哨發見ノ報ニ由テ俄ニ改メ
 タリ實ハ本月初旬此監視哨ノ報ヲ得八月十四日ノ夜ノ月明ヲ利用シ
 變更命令ヲ與ヘン爲メ終始「ワルネンド」ヲ廻漕セシモ「ジョング
 ラフトン」ノ隻影ヲモ認ムルヲ得ス昨日僅カニ右ノ變更命令ヲ與フ
 ルヲ得タリ云々ト
 此ノ如クシテ「ジョングラフトン」カ「トルネヲ」及他一點ニ兵器
 ヲ陸揚シ第三艦「ラタン」地方ニ達スルヤ坐礁セリ勿論此近海ハ船
 舶ノ出入ナキヲ以テ海圖十分ナラス故ニ海圖上ニナキ岩礁ニ坐礁ス
 ルニ至レルハ九月初旬ナリシ此狀況ハ「不思議ナル船」或ハ「ジョ

シングラフトン」一件トシテ歐洲諸新聞ハ筆ヲ揃ヘ書立テタリ
此坐礁ノ事アルヤ地自ハ吏員ヲ派遣シ之ヲ視察セシメタルニ船員
ハ之ヲ捕ヘ船室ニ禁錮シ兵器ヲ揚陸シ然ル後之ヲ解放ヤリ此解放ニ
就テ下官ハ大ニ其手段ノ緩慢ナルヲ攻撃セシニ彼ハ曰ク吏員ハ其職
務ノ爲メニ來レルナリ之ヲ殺スハ人道ニアラスト彼等カ歐洲流ノ宗
義ノ仁ヲ用フルコト往々斯ノ如シ因ニ云フ莫斯科親王暗殺ノトキモ
之ニ似タルコトアリ刺客數日前已ニ親王ヲ殺スノ好機ヲ得タリ然レ
トモ「パウエル」親王ノ子ト同乗セシヲ以テ罪ナキ童子ヲモ併セ殺
スハ道ニ非ストナシ之ヲ思ヒ止マリタルコトアリキ往々之ニ類スル
仁義論ヲ聞クコトアルハ寧ロ滑稽ノ感アリ

斯クノ如ク吏員ヲ解放セシヲ以テ吏員ハ直チニ露都ニ報シ假裝巡洋
艦「アシヤ」ヲ派遣セリ
是ヨリ先キ「セスネー」號ハ倫敦ヲ發スルニ當リ機關砲三門彈一万
五千發戰シ出發セントスルトキ官憲ニ認メラレ其特主名前人タル米
人「モルトン」ハ捕ヘラレ前金ニ處セラレタリ
是ヨリ先八月中旬ヨリ巴的沿岸「レットン」民族ノ亂ハ次第ニ猖獗
トナリ政府ハ第二十軍團ヲ該地ニ派遣シ又「ジョングラフトン」號
ノ事アルヤ第十八軍團ノ一部ハ菲蘭ニ派遣セラレ僧瓦本ハ正ニ平和
訂結ノ翌日「ストツクホルム」ニ來リ大ニ落膽セシモ露國ニ向ヒ出
發シ茶猪子ハ「ジョングラフトン」坐礁ノ事新聞ニ顯ハルルヤ勿惶
「ストツクホルム」ニ來リ晉後策ヲ講セリ
此間高架斯「バクー」地方竝ニ「ゲラルギー」ノ「スーシヤ」地方
ニ露ノ使役スル驍組ト「アルメニア」人トノ間ニ鬭爭始マリ甚タ猖
獗トナレリ十月初旬ヨリ十一月十八日即チ下官カ歐洲ヲ離ルル迄ノ

間ニ起リシ各地方ノ運動ハ蓋シ今日マデノ運動中尤モ劇烈ナリシモノト認ム即チ革命黨ハ魁トシテ莫斯科ニ激烈ナル争鬭ヲ起シ菲蘭土ハ獨立ノ態度ヲ取リ芬蘭土旗ヲ總督ノ衙門ニ懸ヘシ「クールラン」ノ「レットン」民族亦其獨立ヲ宣言シ波蘭土ハ各地離ノ如ク亂レ非常手段、示威運動、鬭争絶ユルトキナク「キエフ」「ラヂツサ」高架斯地方亦之ニ呼應シ動搖一ヶ月半ニ及ヘリ而シテ露都ニ於ケル其運動ノ却テ盛ナルヲ得サリシハ革命黨八月中旬ノ提捕ノ結果ナルカト思ハル何トナレハ瓦本ハ露都ニ赴キシモ十分ノ結果ヲ得スシテ瑞士ニ歸レハナリ

八月六日下官カ巴里出發ノ際人ヲシテ革命黨ノ在巴里委員「ルバノビツチ」ニ問ハシメタル返事ニ曰ク同盟罷工ハ金ヲ費ヤスコト多シ維持困難ナリ故ニ暫ク中止シ他日又之ヲ行ハン今日ニ於テ豫言スルコト雖キモ來春農民運動ヲ起スニ至リ得ンコトヲ期シ居レリト

又高架斯及黑海方面ニ輸送ノ方法立チ在瑞勻ノ銃八千五百挺彈百二

十万ヲ輸送シ下官巴里出發ノ數日前此輸送船ハ地中海ノ「マルタ」ニ到着セルノ報ヲ得タリ歸朝後舊冬十二月二十四日附ノ書面ヲ得タリ曰ク前途ノ好望益多シ良シヤ一時ニ露國政府ヲ顛覆スルヲ得サルモ一步一步ニ之ヲ侵略セン

露國ニ於ケル帝國政府ノ墜落ハ殆ント誰モ之ヲ疑ハス黑海回漕ノ兵器ハ安著セリ又假裝巡洋艦「アシヤ」ニ奪ハレシ兵器ハ悉ク賄賂ニ因テ買戻シ其數八千四百挺ナリシ云々

第七章 間諜及諜報勤務

戰役間諜ノ新聞雜誌ハ大ニ露國ノ形勢ヲ窺フノ材料トナレリ是レ露國ハ其内國ノ出版物ニ大ナル検査ヲ加フルニ拘ハラヌ外國新聞ノ口ヲ抑制スル能ハサレハナリ概シテ露國ハ秘密ヲ守ルニ粗ナリ今後日參者ノ爲メ戰役間新聞雜誌ノ報導精疎ヲ論評スレハ左ノ如シ

露國

「インワリード」及官報ハ動員軍隊、戰時職務ニ於ケル將校ノ敘任ヲ隱匿セサリキ又「ノボエウレミヤ」其他ノ新聞ハ投書及地方記事ノ欄ニ於テ動員及軍隊輸送ノ狀況ヲ時ニ洩スコトアリキ軍隊配置書ハ毎月叮嚀ニ極東派遣軍隊及派遣豫定軍隊ヲ告知セリ

英國

下官ハ「タイムズ」ヨリモ「デリーテレグラフ」カ露國ノ事情ヲ述フルニ精通セルモノト認メ居タリ

獨國

「ターゲフラット」及「ロカルアンツアイゲル」ハ殆ント優劣ナク露國ノ事情ヲ詳報セリ而シテ「ルシツシエアルメイ」ハ最モ精確ニ露軍ヲ調査シタルハ各國ニ於テ其比ヲ見サル所ナリキ

佛國

「エコードバリー」ハ愛露主義ナルモ其報導ノ迅速確實ナル點ニ於テハ蓋シ第一ナリシナラン各國ノ新聞ハ爭フテ其記事ヲ轉載セリ不平黨ノ機關新聞トシテ重ナルモノハ瑞士ノ「イフ、クラール」佛ノ「トリビュンヌリユス」同瑞士ノ「アフ、ボ、ジュデニエ」佛ノ「ウーロベアン」等ナリ

間諜

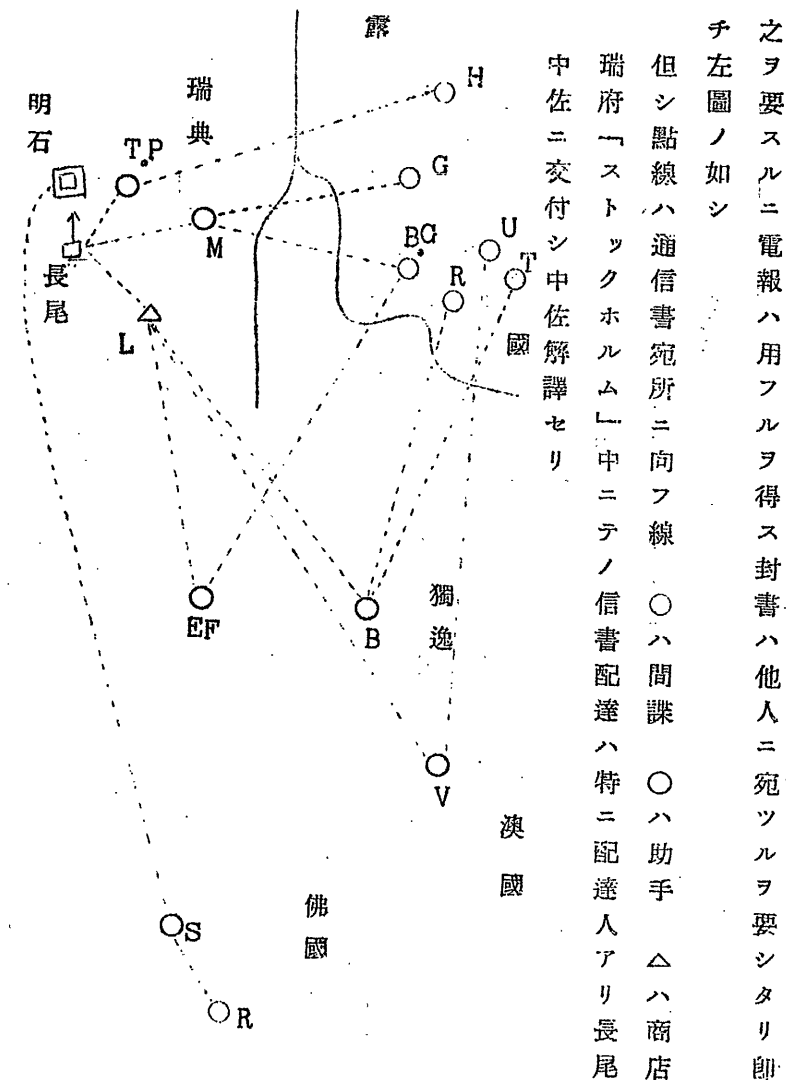
間諜ノ數ハ時ニ因リ變化セシト雖モ平和克復ノ際ニ於ケル其員數ハ七名ニ其助手ノ數ハ五名ナリシ

間諜ハ第一其募集ニ困難大方ナラス何人カ此勤務ヲ盡シ得ルカハ知ルニ由ナシ故ニ成效ト失敗トヲ睹シ目ヲ閉チテ飛込ムヨリ外ニ之ヲ

求ムルノ術ナカリキ
 間諜ヲシテ甲乙互ニ之ヲ知ラシメス又其報告ノ到達ヲ安全ナラシム
 ル爲メ特ニ各別ノ助手ヲ設ケ其書信ノ受領或ハ金錢送附ノ取扱ヲナ
 サシムルヲ要セリ而シテ此助手モ亦容易ニ求メ得ヘキモノニ非サリ
 キ元來助手カ本間諜ト親戚或ハ利害ノ關係密ナルモノナルトキハ間
 諜ヲ保護スルニ尤モ便ナレトモ間諜ハ通常其親戚知己ニハ其業務ノ
 種類ヲ却テ知ラシムルヲ好マサルモノ多ク爲メニ助手ヲ特別ニ求メ
 出シ關係ヲ取ラシムルヲ要スルノ場合ニ往々遭遇セリ
 歐人ノ性質ハ概シテ正直ニシテ金錢ニ對スル義務ノ實行意外ニ嚴格
 ナルハ殊ニ感セシモ常ニ冒險ノ手段ヲ用ヒ其賣ル所トナラサリシハ
 寧ロ僥倖ト云フノ外ナシ

開戦前尤モ苦心ノ點ハ間諜トノ會合及通信ニアリシ或ル時ハ夜間林
 樹ノ下ニ長時間佇立シ或時ハ間諜ト會談ノ席上ニ某將軍ノ來訪ヲ受
 ケ迷惑セシコトアリ密會ノ困難言語ニ絶ユ
 露將校某甲ハ開戦後提捕セラレ自殺セリ某乙ハ提捕セラレ牢獄ニ投
 セラレ平和克復稍前追放セラレ某丙ハ憲兵ニ引致セラレタル後消息
 ヲ聞カス
 開戦ノ初期ハ舊將校鐵、瑞將校等ノ周旋ニ因リ人ヲ使用シタルコト
 モアリシカ厚意の周旋ハ亦タ之ニ伴フノ面倒アル故漸次人ヲ得ルニ
 從ヒ之ヲ廢シ專ラ營利的ニ行フモノヲ用ヒタリ諜報ノ老練ト熱心ハ
 寧ロ金錢ヲ目的トシ働クモノニ其多キヲ感シタリキ
 諜報ニ從事セシモノノ姓氏宿所ハ其永遠ノ名譽ト奇禍トヲ顧慮スル
 ヲ以テ茲ニ述フルヲ憚ル（但シ長尾中佐ハ必要ニ際セハ之ヲ當局ニ
 答ヘ得ヘシ）
 通信ノ文書暗號等方法種々アリ別包諜包ニ其原書ヲ藏ス

書信中ニ用ヒシ暗號ハ種々アリシカ（其一）挿字法ハ假令ハ「ダイ
 サンダグンダンユソウハジマレリ」ト記スニ豫メ約束ノ挿字數ニ從ヒ
 「センダイノクマサハグロンドンダンハイマミユソウデハアルジマタ
 ヲコロリ」ト記シ豫メ二字無駄二字生キ三字無駄三字生キ一字無駄
 一字生キノ順序ト約束シ置キ互ニ之ヲ解讀スルノ類是レナリ此方法
 ハ同一人ニ對シテモ數個ノ變換法ヲ約束シ置キ其書信ノ署名ニ熊吉
 トアルトキハ甲ノ變換法ヲ以テ讀ミ權兵衛トアルトキハ乙ノ變換法
 ヲ以テ解讀スル如クシ以テ他人ニ暗號ノ解讀ヲ困難ナラシムルコト
 アリ又（其二）ハ轉綴法ニシテ「ダイサンダグンダンユソウハジマレ
 リ」ヲ「リレマジハウソユンダグンサイダ」ト記スコト是ナリ
 （其三）ハ商品ノ名ヲ以テ步兵騎兵砲兵等ニ命シ又其番號等ニハ數
 字ヲ加ヘテ記スノ法ヲ用ヒスコトアリ假令ハ「步兵第五聯隊」チエ
 リヤビンスク」ヲ出發ス」ニ代フルニ「赤葡萄五百本」チエリヤビ
 ンスク」ニ送レ」ト云フカ如シ又數字ヲ以テスル類似ノ方法アリ要



スルニ〔其三〕ノ隱語ハ言語不足スルノ遺憾ヲ免レサリキ
 (其四)ハ藥品汁ヲ以テスル書信ニテ受信者之ヲ火ニ溫メ炙ルトキ
 文字顯ハルルモノ是ナリ要ハ其藥品ヲ得ルノ難易ニ因テ其使否定マ
 ル但シ時々讀ミ難キ字ヲ見ルコトアリ炙リ出シ方ノ拙ナルカ或ハ筆
 記者ノ墨汁使用ノ拙ナルヤ驗經十分ニ達セサリシ
 (其五)ハ約束ノ字書(全ク同一)ヲ互ニ所持シ紙數ノ頁數ト其
 行數トヲ數ヘ數字暗號ヲ互ノ間ニ於テノミ作ルニ在リシ
 (其六)ハ毎朝發行ノ新聞紙ヲ送ルモノニシテ其通信法ハ入用ノ字
 ヲ細キ針頭ニテ刺シ受信者ハ之ヲ燈ニ翳シテ拾讀スルニアリ此法モ
 未タ十分ト云ヒ難カリキ
 又其ノ有ノ儘ヲ記シ通信セシコトモアリキ假令ハ「(中略)若シ山
 田君ニ御面會ノ節ニハ宜敷御傳奉願候熊吉モ大層元氣良久シ振リ
 ニテ此間來訪致來月ニハ是非酒保附ニテ第五十聯隊ニ御供シ一モウ
 ケスル積リニテ其運動中ノヨシ申居候」ノ類是ナリ

又戰役間政黨員ヨリ情特ヲ得タルコト少カラサリシ但軍事上ノ事ハ
 其素養ナキヲ以テ其價值十分ナラサリシ彼レ等ハ概シテ間諜ヲ周旋
 スルヲ甚タ好マサリキ是レ萬一ノ場合ニ於テ其名譽全ク地に墜ツル
 ヲ恐ルレハナリ彼等ノ眼中ニハ暗殺放火暴動ハ公然ノ戰術ト見ルモ
 間諜ハ賤劣ノ行爲トシテ區別スルモノ其一因タリ但シ政事通信ハ寧
 ロ進ンテ之ヲナセリ然レトモ已ムヲ得サル場合ニ於テ軍事諜報ヲ一
 時依囑シタルコトアリシ又厚意のニ其聞見セシ軍事ヲ報シ注意ヲ促
 セルコトモアリシ
 軍隊輸送實況ノ爲メ鐵道線路上ニ初メ間諜ヲ配置セシカ其後取締ノ
 嚴ナルニ至リ一名ヲ固定配置トシ二名ヲ游動ト改メタリ此游動間諜
 ハ交番ニ「ストックホルム」ト「イルクツク」間ヲ往復シ其通過セ
 シ輸送兵ヲ觀察スルモノニシテ概ネ甲カ「イルクツク」ヲ發シ「サ
 マラ」附近ニ到着スルノ日「サマラ」附近ヨリ「イルクツク」ニ向
 ヒ乙ハ出發スル如ク其勤務ヲ規定シ以テ全輸送ヲ落チナク實視セシ

ムルニアリシ而シテ其實見ノ結果ヲ「ストックホルム」ニ來リ報告
セシメ固定鐵道監視間諜ノ報告其他一般ノ間諜及情報ニ照シ研究シ
タリ此游動間諜ハ一目シテ軍隊ヲ識別シ其兵數隊號ヲ認ムルニ始メ
ハ少シク困難セシモ終ニ完全ナル視察力ヲ有スルニ至レリ是レ長尾
中佐ノ熱心ナル教育ノ結果ニシテ殊ニ其勞ヲ多シトシ又教育ノ此輩
ニ甚タ必要ナルヲ感セシ所ナリキ
他ノ在露都ノ三名ハ各々獨立シ専ラ中央部或種種ノ席上ニ材料ノ蒐
集ヲナセリ
要スルニ凡テノ裏面的諜報勤務或秘密特別勤務ハ之ヲ秘密派遣員ニ
擔當セシムルコト殊ニ平時ニ於テ必要ナリ是其成敗ハ單ニ一身ニ止
マレハナリ其職業トシテハ新聞通信員タルカ尤モ適當ナラン是レ通
信事業ニ關スルモノト交際スルノ便アレハナリ唯之カ爲メニハ其地
或ハ少クモ歐洲ノ事情ニ熟練ノ人タルヲ要スルニアリ抑モ歐洲ノ全
土ハ殆ント一國ト云フモ可ナリ常設ノ一秘密情報部アリテ若干ノ人

員ヲ有シ全歐土ノ裏面的情報蒐集ニ從事セハ寧ロ便利ニシテ功績舉
ランカ
兎モ角モ諜報勤務ハ軍國最緊要ノ事務ニ屬スルモ經驗多カラス殊ニ
洋ノ東西ヲ問ハス將校ハ至難ニシテ且ツ動モスレハ賤劣ナル此勤務
ニ服スルヲ好マス將來ニ於テ之カ方法ヲ研究スルノ必要アラント信
ス

三十八年五月龍動ニ於テ

露探追隨

自巴里至伯林

及鞋出沒刺名關

孤杖蕭條亞伯山

今夜不知何處宿

明朝晴雨喜憂間

三十八年「ゲンゼン」島ニテ儀裝七月

功名何心望王公

雄心足伸千里風

成敗任天天若墨

白帆一片驚濤中

三十八年九月 諱和

昨夜冬宮燭萬光

君王上殿氣揚々

鐵鎗將下長蛇遯

壯士千秋泣博浪

「ストツクホルム」出發歸朝

長蛇未戮向家鄉

何耐故人謠折楊

征馬不前關外路

萬山秋色惹愁長

知矢克斯告別

友愛情深忘故鄉

追隨到處凌風霜

別離休說斷腹事

成敗回頭夢一場

S 12.2.1.0-1

441

第八章 奇談一束

在露中祕密友人大尉某來訪早朝素ヨリ來訪ノ客アルヲ期セス是該國ノ習慣訪問ハ午後ヲ通例トスレハナリ然ルニ突然謁ヲ求ムルノ鈴鳴ル出テテ之ヲ見レハ黑龍江總督中將「スポツチ」正裝ニテ入り來レリ然ルニ客ヲ迎フルノ室唯僅カニ一個アルノミ而シテ已ニ大尉ノアルアリ如何トモシ難シ唯机上ニアリシ西伯亞ノ皆圖ヲ抱キ勿惶之ヲ隣室ノ洗面室ニ投シ坐ニ復シテ應對ス大尉既ニ去ル總督寒爐ノ雜談ニ及フ下官眼偶々机ノ一隅ニ向フ一ノ祕密書勿惶ノ際隣室ニ移スヲ得ス尙机上ニ横ハルヲ認メ大ニ窮ス然レトモ終ニ發覺セサリキ一日某ト夜間林樹ノ下ニ會合ヲ約ス俟ツコト一時間餘時ニ霪雨甚シ衣服悉ク濕フ而シテ某終ニ大雨ノ爲メ來ラサリキ黑鳩將軍管理部ノ少尉某脫走シテ「ストツクホルム」ニ來ル少尉ハ高架人ナリ日本軍ニ從ヒ戰フヲ願フ切ナリ政黨員某ヲ會シ面會ヲ求ム因テ之ヲ引見スルニ袴上ニ外套ヲ被ル室ニ入り外套ヲ脱スルヲ得

S 12.2.1.0-1

442

ス即チ之ヲ慰撫シ上衣ヲ與フ少尉喜ンテ之ヲ穿ツ軀幹長大袖腕ニ至
ル
一日田中弘太郎中佐ト同伴シ某々ト會スルノ約アリ某其親善ナル某
乙村醫ノ家ヲ以テ會合所ト約ス村醫ノ家ハ巴里ヲ距ル數百哩ノ僻村
ニ在リ薄暮停車場ニ著ス一輛ノ車ナシ乃チ中佐ト共ニ荷物ヲ負擔シ
行クコト數丁農用馬車ノ來ルニ遇フ因テ金ヲ與ヘ谷鎗ノ間ニ坐シ行
クコト十數吉羅醫師ノ家ニ達ス某未タ來リ居ラス村醫固ヨリ何ノ爲
メニ來リシヲ知ラス是ニ於テ之ニ告テ曰ク予ハSノ友人ナリ乞フ貴
家ニSヲ待ツヲ許セト村醫甚タ質朴ナリ友人ノ友ハ是吾友ナリト鵲
ヲ屠リテ饗ス村醫珍客ノ來訪ヲ奇トシ且ツ曰ク如何ニシテSヲ知ル
カ共ニ大學ニ遊ヒ法學ヲ修ム暑中休暇ヲ以テ地方ヲ漫遊シSニ此地
ニ會スルノ豫定ナリ醫曰ク大學ノ教師ハ誰ト是ニ至テ大ニ窮ス曰ク
予ハ傍聽生ナリ教師數々交代シ其名ヲ記憶スルニ遑アラスト醫周旋
尤モ力ム寢ニ及ンテ其客室ヲ與フ然レトモ四圍悉ク牛馬羊豚ヲ養フ

ヲ以テ終夜納蠅ニ襲ハレ眠ルヲ得ス中佐ト交ハル交ハル起キテ之ヲ
逐フ
田中弘太郎中佐同伴某某ト一夕某ノ事務所ニ會ス談午前二時ニ及フ
門鎖テ出ツ可ラス抱關燭ヲ照シ來リ兩人ヲ熟視シテ曰ク足下等ハ日
本人ニ非スヤ深更マテ何事ヲ爲ス某ノ事務所ハ人ノ常住スル所ニア
ラス足下等強テ門外ニ出ント欲セハ乞フ巡査ノ臨檢ヲ待テト兩人頗
ル當惑ス某來リ之ヲ慰諭シ辛フシテ門ヲ出ツルヲ得タリ抱關ハ蓋シ
巡査ノ配下ナリ
一日某丙ニ電報ヲ發セントス然レトモ差出人トシテ署名スルヲ憚カ
ル即チ變名ヲ署シ兒島中佐ノ家老婦ニ托ス老婦還リ報シテ曰ク電信
局差出人ノ姓名宿所ヲ請求セリ因テ妾ハ妾カ家ニ時々出入スル日本
ノ大佐明石様ノ電報ナリト答ヘタルニ直チニ受領セリト得々タリ下
官啞然云フ所ヲ知ラス

シ曰ク加兒妙齡ナル實際ノ人物ヲ搜シ之ニ因テ予ヲ救ヘ予ハ之レナ
クハ死ヲ免レスト長尾中佐某辛ト苦心シ之ヲ求ム辛忽チ姓名録ヲ取
リ膝ヲ打テ曰ク加兒妙齡ナル人アリ之ニ金ヲ與ヘ救済ノ方法ヲ講セ
ント倉皇辭シ去レリ其家ニ至リ面會ヲ求ム家人曰ク妙齡ハ昨年病ニ
死シ今ハ已テニ故人ナリト某辛落膽シテ還ル
某癸常ニ大ニ價ヲ貪ル下官固執之ヲ爭フ某怒テ去ラントシ罵テ曰ク
慳吝汝ノ如キ予ハ爾來絶交スト下官曰ク善シ唯記憶セヨ足下力自筆
ノ書ハ常ニ予ガ胸巻ニ存在スルヲト彼之ヲ奪ハントシテ爭鬭ス會合
ノ家主田野氏偶々歸來シ仲裁ノ「シヤンパン」ヲ汲ミ後親交舊ニ復
ス
某已常ニ夜陰ニ乘シ附髭ヲ裝シ來ル彼ハ老人ニシテ注意周到ナリ一
日長尾中佐ト共ニ其報告ヲ講評ス彼蕭然トシテ曰ク是レ力一杯ナリ
少壯ノ時ヨリ流浪生命ヲ賭ス老去テ亦冒險金ヲ求メ虎口ニ出入ス予
ハ現ニ親ヲ目撃シタル結果ヲ報スルノミ予ヲ知ルモノ獨リ汝アルノ

嘗テ「コペンハーゲン」ヨリ巴羅的海ヲ渡ル船員ト雜談シ之ニ葉卷
煙草ヲ饗ス船員曰ク憲兵ハ足下ノ行動ニ注意ス先刻船ニ來リ足下ノ
行先ヲ尋ネ居タリト其翌々日瀧川大佐亦同地ヲ經過シ終ニ拘引セラ
ル
某政黨員丁嘗テ下官ノ倫敦ノ居寓ヲ訪問ス談深更ニ及フ忽チ戶外ニ
喧噪ノ聲アリ出テテ之ヲ見レハ一壯士巡查ト爭鬭ス丁之ヲ仲裁シ深
ク巡查ニ謝シテ已ム後之ヲ聞ケハ壯士ハ丁ノ護衛ニシテ露探若シ近
キ來レハ之ヲ毆打セヨトノ訓令ヲ違奉シ戶外ヲ徘徊シ巡邏セルニ巡
査誤テ之ヲ盜トナシ言語不通ノ爲メ終ニ爭フニ至レリト僻地ノ露人
質朴ニシテ往々如此蠻行アルハ深ク戒ムル所ナルモ終ニ如何トモシ
難キコトアリ
某庚獄ニ落ツ判官詰テ曰ク「ストックホルム」ヨリ汝ニ送金セシモ
ノアリ正サニ予之ヲ保管ス其姓名ハ加兒^{カール・ミューレル}妙齡トアリ其人物住所及關
係ヲ申立テヨト某庚取リ敢ヘス其親戚ナリト答ヘ卑使ニ托シ書ヲ投

ミト衣囊ヨリ拳銃及毒藥ヲ取り之ヲ示ス曰ク提捕ノ際拳銃ヲ使用シ得サルヲ願慮シ別ニ毒藥ヲ以テ之カ副トナス至誠死生ヲ賭ス請フ酷評スル勿レト

嘗テ某戊ヲ訪ハントシ豫メ約スル所アリ期日其地ノ停車場ニ著ス男女二人アリ一見夫妻ノ如シ近キ來リ問フテ曰ク貴下ハ某戊ヲ尋ヌルニ非スヤ下官曰ク否公園ヲ見物シ旅店ニ入ラントス請フ旅店ヲ教ヘヨト彼慇懃ニ旅店ノ方角ヲ示シテ去ル故ラニ其方角ニ歩スルニ偶マ戊カ豫示セル町名ニ合ス歩スル數歩半ハ門ヲ開キ招クモノアリ方サニ某戊ノ家ナリ之ニ入レハ其友人數名圍樂シ下官ノ到ルヲ待テリ男女ハ蓋シ本日遠方ヨリ到著セルモノ土地ニ面識ナキヲ以テ之ヲ便トシ迎ノ爲メ出セシナリ之ニ類スルノ談頗ル多シ

S 12.2.1.0-1

447

露探R其同僚Sカ某書類ヲ藏スルヲ知ル然レトモRハ反問タルヲ秘スル爲メSニ直接ニ交渉スル能ハス是ニ於テ下官ハ日本人「ス」ニ命シ「ス」ヨリSニ書ヲ送ラシメテ曰ク聞説ク足下某書ヲ有ス予之ヲ購ハン何日何時A所ニ送ツトS書ヲ得テ之ヲ疑フ曰ク是露探某吾輩ノ誠實ヲ疑ヒ之ヲ試ミルナリト直チニ露探長ニ示シ且ツ曰ク請フ吾ヲ疑フ勿レト露探長沈思直チニ其配下二名ヲA所ニ派スR側ニ在テ苦心措ク所ヲ知ラス「ス」ニ打電シテ曰ク來ル勿レト「ス」幸ニ電報ヲ得之ヲ歇ム後日其書ハ「ス」之ヲ得タリ

旅行中嘗テ公使某氏ニ遇フ曰ク足下ハ何レニ宿スルヤト

露探ハ下官ノ倫敦ニ在ルヲ知ルモ住所ヲ知ラス茶、瓦等「クルチヴスキー」婦人ノ家ニ會合スルヲ知ル然レトモ下官「クルチヴスキー」婦人ヲ知ラス而シテ專ラB及Dト交渉ス露探反問「クルチヴスキー」ヲ以テ下官ノ僞名ト信シ「クルチヴスキー」ニ打電シテ曰クB及Dト足下ノコトニ付キ告クヘキコトアリ「クルチヴスキー」電報

S 12.2.1.0-1

448

ヲ得テ之ヲ疑ヒ下官ニ贈ル反問曰郵便開封ハ汽車ノ中ニ於テ行フコト多シト
 幹事某大膽剛腹ナリ昨夏ニ至リ神經過敏トナリ夜眠ル能ハス食進マ
 ス用談中常ニ藥ヲ嚙ミ又屢々眩暈ス事窮セハ必ス自カラ頭ヲ叩キ煩
 悶スルコト狂人ノ如シ側ヨリ之ヲ問ヘハ輒チ曰ク天下ノ事豈ニ解ク
 ヘキノ道ナカラシヤ豈ニ解クヘキノ道ナカラシヤト五分間ノ後舊ニ
 復シ平然苦難ヲ忘レタルモノノ如シ之ヲ問ヘハ曰ク解クヘキノ道ハ
 自然ニ來ラント全ク別人ノ如シ
 某某カ莫斯科親王ヲ圖ルヤ嘗テ親王カ其弟「ホウル」親王ノ子ヲ伴
 ヒ散步スルニ遭フ然レトモ終ニナス所ナクシテ歸リ再舉ヲ圖リ其友
 ニ語テ曰ク今日ノ好機吾之ヲ逸ス無事ノ小兒ヲ害センコトヲ恐レ遂
 ニ果サスト

第九章 結 論

要スルニ露國ノ前途ヲ觀察スルニ杞憂家ト樂天家ト多少其見地ヲ異
 ニスト雖トモ畢竟其政府ノ力ヲ推論スルノ輕重ニ在ルノミニシテ積
 弊ノ致ス所政府ハ腐敗シ政黨ハ國家主義ヲ脱シ個人主義日ニ發達ス
 ルハ爭フ可カラサル事實ナリ
 露國ハ一億三千萬ノ人口ヲ有スト雖モ其一億三千萬ハ數ヲ示スノミ
 ニシテ實力ヲ示サス何ントナレハ波蘭土、芬蘭土、高加索、巴爾的
 沿岸ノ如キ侵地ノ民ハ勿論固有ノ露人モ亦各個各別ニ相爭フヲ以テ
 ナリ獨リ民間ニ於テ然ルノミナラス宮中内閣一トシテ明黨比周ノ府
 ナラサルナキハ既ニ開戦前ニ於ガモ明カニ其事情ヲ示ス所ニシテ露
 人ノ先天的特性ト謂ハサルヘカラス昨年十一月十五日露國最良ナル
 佛國ノ「エコドバリー」ノ記者ト「キリール」親王トノ問答ノ如キ
 亦之ヲ見ルニ足ル親王曰ク予カ侍從武官ノ職ヲ奪ハレ他郷ニ流寓ス
 ル何ンソ問フニ足ランヤ皇室典範ハ予カ職ヲ奪フベキノ箇條ヲ掲ゲ

ス而シテ予ハ流浪ノ人トナル予ハ唯露國ノ前途ヲ憂フルノ外ナシ忠誠ナル我父王「ウラヂミル」ハ今ヤ斥ケラレ國務大臣ハ予輩ノ嘗テ姓名ヲダニ聞カサル徒ノミヲ以テ其席ヲ充タス豈言フニ忍ビンヤト露市ノ從弟ニシテ怨言斯クノ如シ宮中明黨ノ多キ故ナキニアラス官吏ノ收斂ト其腐敗ニ至テハ世既ニ定論ノ存スルアリ此ノ如キ國政豈不平ノ徒ヲ生セサルヲ得シヤ^{（ステル）}卑照カ刑ニ臨ミ我死ストモ後世必ス志ヲ繼グモノアラント絶叫セシカ如ク不平ノ空氣ハ起ラサラント欲スルモ得サルナリ

歴代ノ政弊其極ニ達スルノミニアラス遠ク溯テ之ヲ覈フレハ露國ノ帝室ハ亦タ實ニ脆弱ナル基礎ノ上ニ立テラレアルコト前章歴史ノ部ニ於テ之ヲ述フルカ如シ

此ノ如ク脆弱ナル帝室腐敗セル政府ヲ載ケル露ノ國民ハ馬ノ如ク羊ノ如キ無智ノ徒ニシテ亞歐ノ大帝國ハ荒漠タル牧場ト云フモ過言ニ非ラス

然ルニ千七百年代ヨリ歐南ニ吹キ起レル自由ノ波濤ハ或ハ佛國ノ革命トナリ或ハ西班牙ノ革命トナリ伊太利瑞士ヲ犯シ白耳義和蘭陀ヲ掠メ萊因河ヲ越ヘテ社會主義ノ潮流ハ年毎ニ激烈ニ獨逸帝國ヲ襲フニ當リ安ソ露國ニ入ラサルヲ得ンヤ然リ其入ルヤ可ナリ然レトモ殘破ノ堤防ヲ存スル此境内ニ於テ波勢ハ其形ヲ變シテ一層ノ險惡ヲ加フ是レ「ツールゲニエフ」「バクーニン」及茶猪子等ノ議論ヲ獨ノ「ペーベル」佛ノ「ジヨレス」「クレマンソー」等ニ比スレハ更ニ幾層ノ激烈ヲ加フル所以ナリ

露國ハ甚タ大ナリ故ニ全露ニ自由及社會主義ノ傳播ハ寧ロ緩慢ナルモ隣邦悉ク之ニ侵サルルノ今日露國豈ニ獨リ其運命ヲ免ルルヲ得ンヤ如カモ尤モ險惡ナル政事主義ハ此境土ニ葛延スルニ至ラン是レ人民ハ餓ニ泣キ愚蒙ニシテ迷ヒ易ク愛國心ニ乏シキ等一トシテ之ニ應スルノ素質ヲ缺カサレハナリ既ニ未來ト云ハス現時熾ンニ其傳播ヲ見ル況ンヤ形式ニ過キサルモ既ニ憲法ノ發布セルアリ原則既ニ成ル退カント欲スルモ退クヲ得サルナリ

若シ夫レ自由黨ノ主張スル總投票ニシテ早晚行ハルルニ至ランカ是
レ皇室瓦解ノ始メナリ何トナレハ職工ト農民トニ尤モ多クノ得意ヲ
有スル兩社會黨ハ共和政事ヲ以テ其目的トスルモノナレハナリ
故ニ今日ニ於テ露ノ取ルヘキ方針ハ抑壓主義ノ外他ニ方法ナシ然レ
トモ政府ノ力之ニ堪ユルヤ否ハ一問題タルノミナラス既ニ憲法制度
ヲ布ケルヲ以テ騎虎ノ勢之ヲ變更スルヲ得ス唯抑壓主義ヲ取ラハ一
伸一縮ノ間ニ其壽命長カルヘシト云フニ止マルノミ如此場合ニ於テ
僅カニ一道ノ光明ヲ存スルモノハ自由黨カ意思貫徹後食足り満足ス
ルニアルモ該黨ノ如キ多數ノ異分子ヲ含ムモノ斯カル困難ノ時來リ
テ果シテ食止メ得ルヤ甚タ覺束ナシ故ニ露國ノ前途ハ暗黒ナリ然レ
トモ總テノ學者カ論スル如ク露國ノ皇帝政事ト威力主義ハ原則トシ
テ相離ルヘカラス兩々相依テ車ノ兩輪ヲナセリ故ニ皇帝政治ノ續カ
ン限リハ兵力ヲ維持センコトヲ力ムヘキヲ以テ我之ニ對スルノ兵備
ニ至テハ決シテ等閑ニ附スヘカラス

露ノ取ル手段ハ常ニ大膽ナリ既ニ今回ノ戰役ニ於テ見ル如ク其宮城
ニ襲撃ヲ受ケサル迄ハ地方ノ紊亂モ官有地ノ侵略モ官林ノ押領モ悉
ク之ヲ眼中ニ置カス度外シ百難ヲ忍ビ戰線ニ兵ヲ加フルコトヲ力ム
ルハ明ナリ不平黨ノ言ニ露皇ハ其民ヲ愛シ其國ヲ守ルニアラスシテ
其身ヲ愛シ其宮城ノミヲ守ルノ君主ナリト云フモノ其眞理ナリ故ニ
宮城ヲ屠ラレサル間ハ無理算段シテ兵ヲ増加スルヲ以テ隨テ我兵力
ノ充實ハ今日以後尤モ其緊要ヲ見ル世人往々云フ巴爾干半島ノ亂ハ
露國ニ苦痛ヲ與フヘシト苦痛ハ或ハ之レアララン然レトモ斯ノ如ク露
國ニ取リ縁邊遠キコトハ毫モ其絶東經營ヲ妨クルニ足ラス故ニ皇帝
政治ノ續カン限リハ之ニ應スル兵力ノ充實ハ必要ナリ
又今日眼前ニ於テハ更ニ偶然ノ成行ヨリ來ルヘキ結果ヲ顧慮スルモ強
チ無益ニアラサルヘシ即チ絶東ヨリ内政ノ爲メ還送ヲ躊躇セル絶東
數十万ノ兵ヲ屯田的ノ狀勢ニ變化セシムコト是レナリ是ノ如キハ
一時駐屯隊ノ不平ヲ増加スヘシト雖モ亦自然國境防備ノ力ヲ増加ス

128

ルニ至ルヤ知ルヘカラス如何ニ腐敗スルモ露國ハ内地ニ國境ニ強大
ノ兵力ヲ有ス豈ニ深ク之ニ備フルノ道ヲ講セスシテ可ナランヤ

S 12.2.1.0-1

455

N-0049

0350